

12. 5. 2004

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 4 月 1 1 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 1 0 8 2 1 2
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 3 - 1 0 8 2 1 2]

出 願 人 東 芝 テ ッ ク 株 式 会 社
Applicant(s):

REC'D 03 JUN 2004

WIPO

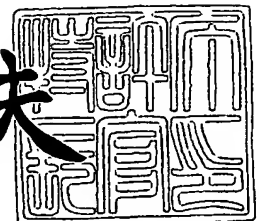
PCT

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2 0 0 4 年 4 月 1 2 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 16290

【提出日】 平成15年 4月11日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A47L 9/10

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県秦野市堀山下 4 3 番地 東芝テック株式会社
 秦野工場内

 【氏名】 米川 光久

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県秦野市堀山下 4 3 番地 東芝テック株式会社
 秦野工場内

 【氏名】 阿部 功一

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県秦野市堀山下 4 3 番地 東芝テック株式会社
 秦野工場内

 【氏名】 小川 洋記

【特許出願人】

 【識別番号】 000003562

 【氏名又は名称】 東芝テック株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100082670

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 西脇 民雄

【選任した代理人】

 【識別番号】 100114454

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 西村 公芳

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2002-362302

【出願日】 平成14年12月13日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 007995

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9710438

【包括委任状番号】 0011712

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書
【発明の名称】 マッサージ装置
【特許請求の範囲】

【請求項 1】

利用者の被施療部を配置させる配置溝が設けられ且つ前記配置溝の周方向に回動可能に設けられた支持部材を有する施療部載せ台と、前記支持部材を前記配置溝の周方向に回動させる回動手段と、前記配置溝に設けられた施療子と、前記施療子を作動させて前記被施療部を前記施療子によりマッサージさせる施療子作動手段と、前記回動手段及び前記施療子作動手段を作動制御する制御手段を備えるマッサージ装置であって、

前記制御手段は、前記回動手段を作動させて支持部材を前記配置溝の周方向に回動させる回動動作をさせながら、前記施療子作動手段を作動させて前記被施療部を前記施療子によりマッサージさせることを特徴とするマッサージ装置。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のマッサージ装置において、前記施療子は前記配置溝の対向する側壁の少なくとも一方に取り付けられたエアバッグであり、前記施療子作動手段は前記エアバッグにエアを給排気して前記エアバッグを膨張・収縮させるエア給排気手段であると共に、

前記制御手段は、前記回動手段を制御して前記エアバッグが排気状態のとき前記回動動作をさせ且つ前記エアバッグが給気状態のとき前記回動動作を停止させることにより、前記支持部材を前記配置溝の周方向に間欠的に回動させながら、前記エアバッグで前記被施療部を間欠的にマッサージすることを特徴とするマッサージ装置。

【請求項 3】

請求項 1 に記載のマッサージ装置において、前記施療子は前記配置溝の対向する側壁の少なくとも一方に取り付けられたエアバッグであり、前記施療子作動手段は前記エアバッグにエアを給排気して前記エアバッグを膨張・収縮させるエア給排気手段であると共に、

前記制御手段は、前記回動手段を制御して前記エアバッグが給気状態のとき前

記回動動作をさせることにより、前記エアバッグで前記被施療部をマッサージすることを特徴とするマッサージ装置。

【請求項 4】

請求項 1 又は 2 に記載のマッサージ装置において、前記施療部載せ台は椅子の座部の前側下部に上下回動可能に取り付けられる脚載せ台であって、前記脚載せ台を上下駆動する台駆動手段が設けられていると共に、前記制御手段は前記台駆動手段を作動させて前記脚載せ台を上下駆動させながら前記マッサージを行わせることを特徴とするマッサージ装置。

【請求項 5】

請求項 4 に記載のマッサージ装置において、前記制御手段は、前記脚載せ台を所定量だけ上方又は下方の一方向に駆動させて前記マッサージを行わせた後、前記脚載せ台を前記所定量より少ない量だけ前記一方向とは反対方向に駆動させて前記マッサージを行わせる動作を所定範囲内で繰り返すことを特徴とするマッサージ装置。

【請求項 6】

請求項 1 に記載のマッサージ装置において、前記制御手段は、前記支持部材を所定量だけ周方向の一方向に駆動させて前記マッサージを行わせた後、前記支持部材を前記所定量より少ない量だけ前記一方向とは反対方向に駆動させて前記マッサージを行わせる動作を所定範囲内で繰り返すことを特徴とするマッサージ装置。

【請求項 7】

請求項 1 に記載のマッサージ装置において、前記支持部材が左右一対隣接して配置され且つ前記一対の支持部材の配置溝が互いに平行に設けられ、前記回動手段は前記一対の配置溝の開放端同士が互いに接近・離反する方向に前記一対の支持部材を回動駆動させて前記一対の支持部材を開閉させると共に、前記制御手段は前記一対の支持部材の開閉時間がランダムになるように前記回動手段を作動制御することを特徴とするマッサージ装置。

【請求項 8】

請求項 1 に記載のマッサージ装置において、前記施療部載せ台は椅子と組み合

わせて利用される脚載せ台であり、前記脚載せ台に設けた支持部材の配置溝には前記被施療部としての下腿の脛をマッサージする脛用施療子が配置され、前記椅子の人体当接面には前記利用者の前記脛より上部の部分のマッサージを行わせる椅子用施療子が設けられていると共に、前記制御手段は、前記施療子作動手段を作動させて前記下腿の脛を前記脛用施療子によりマッサージさせると同時に前記椅子用施療子により前記利用者の前記脛より上部の部分のマッサージを行わせることを特徴とするマッサージ装置。

【請求項 9】

請求項 8 に記載のマッサージ装置において、前記脛用施療子と前記椅子用施療子とを同時に作動させるためのスイッチを有することを特徴とするマッサージ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は、利用者の被施療部をマッサージする施療子が施療部載せ台に設けられたマッサージ装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来の椅子式マッサージ装置には、下腿配設溝が設けられた脚載せ台を椅子の座部の前側下部に上下回動可能に取り付け、この脚載せ台を台駆動手段で上下方向の任意の角度に回動させて停止させることができるようにすると共に、下腿配設溝の対向する側壁にエアバッグをそれぞれ取り付けて、このエアバッグをエア給排気手段により膨張・収縮させることにより、下腿配設溝に配設された利用者の下腿をエアバッグでマッサージするようにしたものがある。

【0003】

この様な脚載せ台には、椅子の座部の前側下部に上下回動可能に取り付けられた脚載せ台本体と、下腿配設溝が設けられ且つこの下腿配設溝の周方向に回動調整可能に脚載せ台本体に装着された脚支持部材を備えるものが知られている（例えば特許文献 1 参照）。

【0004】

この脚載せ台では、脚支持部材を下腿配設溝の周方向に回動調整することで、下腿配設溝の傾き角度を使用者の好みに応じて任意に調整して、下腿のエアバッグによるマッサージ部位を変更できるようになっている。

【0005】

【特許文献1】

特開 2001-333951号公報（第4実施形態、段落番号0062）

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、この脚載せ台を有するマッサージ装置では、下腿配設溝の傾き角度を使用者が好みに応じて任意に調整した後、その位置でのマッサージを繰り返すのみの動作しか実行していなかった。

【0007】

この様に従来は、エアバッグの膨脹動作中は下腿の周方向各部のマッサージを部分的にしか実行していなかったため、必ずしも満脚できるものではなかった。

【0008】

そこで、この発明は、被施療部の周方向各部のマッサージを連続的に実行して、被施療部のマッサージを効果的に行うことができるマッサージ装置を提供することを目的とするものである。

【0009】

【課題を解決するための手段】

この目的を達成するため、請求項1の発明のマッサージ装置は、利用者の被施療部を配置させる配置溝が設けられ且つ前記配置溝の周方向に回動可能に設けられた支持部材を有する施療部載せ台と、前記支持部材を前記配置溝の周方向に回動させる回動手段を有する。また、このマッサージ装置は、前記配置溝に設けられた施療子と、前記施療子を作動させて前記被施療部を前記施療子によりマッサージさせる施療子作動手段と、前記回動手段及び前記施療子作動手段を作動制御する制御手段を備える。しかも、マッサージ装置の前記制御手段は、前記回動手段を作動させて支持部材を前記配置溝の周方向に回動させる回動動作をさせなが

ら、前記施療子作動手段を作動させて前記被施療部を前記施療子によりマッサージさせる様になっている。

【0010】

【発明の実施の形態1】

以下、この発明の実施の形態1を図面に基づいて説明する。

[構成]

図1、図2は、椅子1の前側下部にこの発明のマッサージ装置2を装着した例を示したものである。この椅子1としては、乗物の椅子や、家庭で用いられる椅子、或いはマッサージ装置が座部や背凭れに設けられた椅子であっても良い。

【0011】

このマッサージ装置2は、被施療部である下腿をマッサージするための脚マッサージ装置として以下に説明するが、腕を被施療部としてマッサージする為にも用いることもできる。

<椅子1>

この椅子1は、図8～図11に示したフレーム3（詳細図示略）の両側部に設けられた肘掛け兼用の側部支持部材4、4と、この側部支持部材4、4の上下方向中間部間に配設され且つフレーム3に支持された座部5と、座部5の後部側に位置してフレーム3に取り付けられた背凭れ6を有する。そして、側部支持部材4は、座部5より下部が脚部4aとして用いられ、座部5より上部が肘掛け4bとして用いられる。また、フレーム3の前端部下面には、斜め下方に延びるバック支持板7が取り付けられている。

<マッサージ装置2>

（脚載せ台）

このマッサージ装置2は施療部載せ台（施療部載置台）としての脚載せ台8を有する。この脚載せ台8は、図3、図4に示したような板状の脚載せ台本体9と、脚載せ台本体9の左右両側部の一端部下面固定された図6のアーム10（図8～図11参照）を有する。この各アーム10は、図6では下方（図8では後方側）に突出していて、座部5の前端部下方に位置させて支持軸11により脚部4aに回動自在に支持されている（図2、図8～図11参照）。

【0012】

また、この脚載せ台 8 は、図 6 に示した様に脚載せ台本体 9 の左右方向中央に位置させて前縁部及び後縁部（図 8 では下端部及び上端部に対応する）に基端部が取り付けられた一对の支持ブラケット 12, 12（図 7 参照）と、図 7 の如く支持ブラケット 12, 12 間に位置させたバッグ支持部材 13 を有する。

【0013】

このバッグ支持部材 13 は、基端部が図 3, 図 4 に示した如く脚載せ台本体 9 に固定された側壁 13a, 13a と、両側壁 13a, 13a の先端を連設している頂壁 13b を有する。尚、側壁 13a, 13a は、間隔が基端から頂壁 13b に向かうに従って次第に小さくなるように「ハ」の字状に傾斜させられている。

【0014】

更に、脚載せ台 8 は、支持ブラケット 12, 12 の先端部に両端部が固定された支持軸 14 と、支持軸 14 の両側に配設された脚支持部材 15, 16 と、脚支持部材 15, 16 を支持軸 14 に回動自在に取り付けているヒンジ 17, 18 を有する。この脚支持部材 15, 16 は、図 6 では前後（図 1, 図 2 では上下）方向に延びる下腿配設溝 15a, 16a を有する。

（施療手段）

また、マッサージ装置 2 は、図 3, 図 4 に示したように、施療部配置用の配置溝としての下腿配設溝 15a の対向する側壁 15a1, 15a2 に沿って配設された施療子としてのもみ用のエアバッグ 19, 20 と、下腿配設溝 16a の対向する側壁 16a1, 16a2 に沿って配設された施療子としてのもみ用のエアバッグ 21, 22 を有する。このエアバッグ 19～22 は、ある程度保形性を有するので、自己の弾性力により側壁 15a1, 15a2, 16a1, 16a2 に沿って保持されている。

【0015】

尚、本実施例ではエアバッグ 19, 20 は連設部が下腿配設溝 15a の底部にボルト 23, ナット 24 で固定され、エアバッグ 21, 22 は連設部が下腿配設溝 16a の底部にボルト 25, ナット 26 で固定されている。このエアバッグ 19, 20 は、一体に連設しているが、それぞれ別体に形成したものを別々に下腿

配設溝 15 a に取り付けても良い。この点はエアバッグ 21, 22 についても同様である。

(脚支持部材スイング用の回動手段)

更に、マッサージ装置 2 は、図 3 ～図 5 に示したようにバッグ支持部材 13 の側壁 13 a, 13 a の一方と脚支持部材 15 の側壁 15 a 1 間に配設された回動手段 (脚支持部材スイング用) としてのエアバッグ 27 と、バッグ支持部材 13 の側壁 13 a, 13 a の他方と脚支持部材 15 の側壁 15 a 1 間に配設された回動手段 (脚支持部材スイング用) としてのエアバッグ 28 を有する。このエアバッグ 27, 28 は、バッグ支持部材 13 の頂壁 13 b に固定手段としてのビス B で取り付けられている。尚、このエアバッグ 27, 28 は、それぞれ 2 以上重ねて設けた構成とすることもできる。この場合には、脚支持部材 15, 16 の回動量を大きく取ることができる。

【0016】

また、このエアバッグ 27, 28 は、エアを供給して最大に膨脹させることにより、図 4 の如く脚支持部材 15, 16 を支持軸 14 を中心に下腿配設溝 15 a, 16 a が互いに傾斜した状態で対向する位置まで回動させることができるようになっている。

(カバー)

更に、マッサージ装置 2 は、脚載せ台本体 9 及びこの脚載せ台本体 9 に取り付けられた各部品を覆う伸縮自在なカバー 29 を有する。このカバー 29 は、下腿配設溝 15 a, 16 a に沿って配設されていて、エアバッグ 19, 20 を下腿配設溝 15 a の対向する側壁 15 a 1, 15 a 2 に沿って保持していると共に、エアバッグ 21, 22 を下腿配設溝 16 a の対向する側壁 16 a 1, 16 a 2 に沿って取り付けるように保持している。

(脚載せ台 8 の昇降スイング手段)

また、マッサージ装置 2 は、図 8 ～図 11 に示したように脚載せ台本体 9 とバッグ支持板 7 との間に介装した昇降駆動手段 30 を昇降スイング用の台駆動手段として有する。この昇降駆動手段 30 は、複数のエアバッグ 31, 32, 33, 34 を重ねてバッグ支持板 7 の前面に取り付けたものである。

【0017】

更に、マッサージ装置 2 は、図 12 (a) のエア給排気手段 35 及び演算制御回路 36 と、図 1 及び図 12 (b) のリモコン 37 を有する。

(エア給排気手段 35)

このエア給排気手段 35 は、図 12 (a) に示したように演算制御回路 36 により作動制御されるエア供給源としてのエアコンプレッサー 38 と、エア給排気弁 39, 40, 41 を有する。このエア給排気弁 39, 40, 41 は、それぞれ 3 つの図示しない第 1 ポート、第 2 ポート、第 3 ポートを有する。そして、エア給排気弁 39, 40, 41 の第 1 ポートは、エアホース 39h, 40h, 41h を介してエアコンプレッサー 38 のエアの吐出口 (図示せず) に接続されている。

【0018】

また、エア給排気弁 39 の第 2 ポート (図示せず) はエアホース 19h ~ 22h を介してエアバッグ 19 ~ 22 に接続され、エア給排気弁 40 の第 2 ポート (図示せず) はエアホース 42 を介してエアバッグ 27, 28 に接続され、エア給排気弁 41 の第 2 ポート (図示せず) はエアホース 43 を介して昇降駆動手段 30 のエアバッグ 31 ~ 34 に接続されている。しかも、各エア給排気弁 39, 40, 41 の第 3 ポートは、大気に開放させられている。

【0019】

尚、エアバッグ 27, 28 には、図 5 に示した様に、バッグ支持部材 13 の頂部 13e 側に近接して側壁 13a, 13a を貫通するホース接続パイプ 27a, 28a がそれぞれ設けられている。このホース接続パイプ 27a, 28a は、エアバッグ 27, 28 を頂部 13b 側において側壁 13a, 13a に固定している。そして、このホース接続パイプ 27a, 28a にエアホース 42 が接続されている。

【0020】

また、エア給排気弁 39, 40, 41 には、エア流出ポートの一つを大気に開放した三方切替電磁弁又はロータリーバルブ等の周知の構造のものをを用いることができる。

【0021】

そして、演算制御回路36は、エア給排気弁39を作動制御してこのエア給排気弁39の第1, 第2ポートを連通させ、エアコンプレッサー38をエアホース39h, エア給排気弁39, エアホース19h~22hを介してエアバッグ19~22に連通させることにより、エアコンプレッサー38からのエアをエアバッグ19~22に供給できる様になっている。また、演算制御回路36は、エア給排気弁39を作動制御してこのエア給排気弁39の第2, 第3ポートを連通させ、エアバッグ19~22をエアホース19h~22h及びをエア給排気弁39を介して大気に連通させることにより、エアバッグ19~22のエアを大気に排気することができるようになっている。

【0022】

また、演算制御回路36は、エア給排気弁40を作動制御してこのエア給排気弁の第1, 第2ポートを連通させ、エアコンプレッサー38をエアホース40h, エア給排気弁40, エアホース42, 42を介してエアバッグ27, 28に連通させることにより、エアコンプレッサー38からのエアをエアバッグ27, 28に供給できる様になっている。また、演算制御回路36は、エア給排気弁40を作動制御してエア給排気弁40の第2, 第3ポートを連通させ、エアバッグ27, 28をエアホース42, 42及びをエア給排気弁40介して大気に連通させることにより、エアバッグ27, 28のエアを大気に排気することができるようになっている。

【0023】

更に、演算制御回路36は、エア給排気弁41を作動制御してこのエア給排気弁41の第1, 第2ポートを連通させ、エアコンプレッサー38をエアホース41h, エア給排気弁41, エアホース43を介してエアバッグ31~34に連通させることにより、エアコンプレッサー38からのエアをエアバッグ31~34に供給できる様になっている。また、演算制御回路36は、エア給排気弁41を作動制御してこのエア給排気弁41の第2, 第3ポートを連通させ、エアバッグ31~34をエアホース43及びをエア給排気弁41介して大気に連通させることにより、エアバッグ31~34のエアを大気に排気することができるようにな

っている。また、演算制御回路 36 は、エア給排気弁 41 を作動制御して、このエア給排気弁 41 の第 2 ポートと第 1, 第 3 ポートとの連通を遮断できる様になっている。

(リモコン 37)

このリモコン 37 には、電源スイッチ 44, 脚載せ台駆動用 (脚載せ台スイング用) の上動スイッチ 45 U 及び可動スイッチ 45 L, コースマッサージ用のコーススイッチ 46, 停止スイッチ 47, 速度アップ用のスイッチ 48, 速度ダウン用のスイッチ 49 が設けられている。この各スイッチ 44 ~ 49 は演算制御回路 36 に接続されている。

[作用]

次に、この様な構成の椅子 1 に設けられたマッサージ装置 2 の作用を説明する。

(1) 脚載せ台 8 の昇降 (上下動) 操作

この様な構成においては、不使用時に脚載せ台 8 が図 8 の如く鉛直軸に対して 0° の状態 (下腿配設溝 15 a, 16 a が鉛直方向に延びると共に前側に開放した状態) となっている。

【0024】

この位置で、利用者が椅子 1 に着座して、左右の脚を下腿配設溝 15 a, 16 a にそれぞれカバー 29 の上から配設すると共に、リモコン 37 の電源スイッチ 44 を ON させて演算制御回路 36 を作動させる。

【0025】

この状態で、リモコン 37 に設けた脚載せ台駆動用の上動スイッチ 45 U を押すと、演算制御回路 36 はコンプレッサー 38 を作動させる。また、この際、演算制御回路 36 は、エア給排気弁 41 を作動制御してエア給排気弁 41 の第 1, 第 2 ポートを連通させ、エアコンプレッサー 38 の吐出口とエアバッグ 31 ~ 34 を連通させて、エアコンプレッサー 38 からのエアをエアホース 41 h, エア給排気弁 41, エアホース 43 を介して供給させることにより、エアバッグ 31 ~ 34 を膨脹させる。

【0026】

このエアバッグ31～34は、上動スイッチ45Uを押している間だけ膨脹させられて、図8の状態から図9～図11の様に任意に膨脹させられる様になっている。これにより脚載せ台8は、支持軸11を中心に図8の鉛直軸に対して0°の状態から図9～図11の如く鉛直軸に対して略90°（略水平）になるまでの間で任意に上昇スイングさせられる様になっている。

【0027】

一方、リモコン37に設けた脚載せ台駆動用の下動スイッチ45Lを押すと、演算制御回路36はコンプレッサー38を作動を停止させる。また、この際、演算制御回路36は、エア給排気弁41を作動制御してこのエア給排気弁41の第2，第3ポートを連通させ、エアバッグ31～34を大気に連通させて、エアバッグ31～34内のエアをエアホース43及びエア給排気弁41，を介して大気に排気させ、エアバッグ31～34を収縮させる。

【0028】

このエアバッグ31～34は、下動スイッチ45Lを押している間だけ収縮させられて、図11の状態から図10～図8の様に任意に収縮させられる様になっている。これにより、脚載せ台8は、支持軸11を中心に図11の鉛直軸に対して90°（略水平）の状態から図10～図8の如く鉛直軸に対して0°になるまでの間で任意に上昇スイングさせられる様になっている。

（2）コースマッサージ

また、演算制御回路36は、リモコン37のコースマッサージ用のスイッチ46が押されると、図13に示したフローチャートに従ってエアコンプレッサー36及びエア給排気弁39，40，41を作動制御する。この際、フローチャートのステップに対応させて右側に脚支持部材15，16や脚載せ台8の状態を示して説明する。

ステップS1

即ち、演算制御回路36は、スイッチ46が押されてスタートすると、ステップS1で脚支持部材スイング用のエアバッグ27，28をエア給排気弁40を作動制御してこのエア給排気弁40の第2，第3ポートを連通させ、このエア給排気弁40を介してエアバッグ27，28を大気に連通させ、エアバッグ27，2

8内のエアを排気させることにより、右側に図示したように脚支持部材15、16の角度が付いていない状態にして、ステップS2に移行する。

ステップS2

このステップS2では、図14のステップS10～ステップS23で示した基本もみ動作が実行される。

<基本もみ動作>

ステップS10

このステップS10において演算制御回路36は、エアコンプレッサー38を作動させると共に、エア給排気弁39を作動制御してこのエア給排気弁39の第1、第2ポートを連通させ、エアコンプレッサー38からのエアを上述したようにもみ用のエアバッグ19～22に供給し、エアバッグ19～22を膨脹させる。これにより、利用者の左の下腿がエアバッグ19、20により挟み付けるように押圧されると共に、利用者の右の下腿がエアバッグ21、22により挟み付けるように押圧される。この押圧が終了すると演算制御回路36はステップS11に移行する。

ステップS11

このステップS11において演算制御回路36は、エアコンプレッサー38を停止させると共に、エア給排気弁39を作動制御してこのエア給排気弁39の第2、第3ポートを連通させ、エアバッグ19～22からのエアを上述したように大気に排気させ、エアバッグ19～22を収縮させる。これにより、利用者の左の下腿を挟持しているエアバッグ19、20の挟持力が解放されると共に、利用者の右の下腿を挟持しているエアバッグ21、22の挟持力が解放される。この動作が終了すると演算制御回路36はステップS12に移行する。

ステップS12

このステップS11において演算制御回路36は、エアコンプレッサー38を所定時間だけ作動させると共に、エア給排気弁40を作動制御してこのエア給排気弁40の第1、第2ポートを連通させ、エアコンプレッサー38からのエアを上述したように脚支持部材スイング用のエアバッグ27、28に供給し、エアバッグ27、28を所定量（例えば全膨張量の半分）だけ膨脹させる。この後、演

算制御回路 36 は、更にエア給排気弁 40 を作動制御してこのエア給排気弁 40 の第 2 ポートを第 1、第 3 ポートに対して遮断させて、エアバッグ 27、28 とエアコンプレッサー 38 及び大気との連通を遮断させた状態とする。

【0029】

このエアバッグ 27、28 の膨脹により利用者の下腿を支持する脚支持部材 15、16 が支持軸 14 を中心に最大スイング量の略半分だけ回転させられて、ステップ S13 に移行する。

ステップ S13

このステップ S13 において演算制御回路 36 は、エアコンプレッサー 38 を作動させると共に、エア給排気弁 39 を作動制御してこのエア給排気弁 39 の第 1、第 2 ポートを連通させ、エアコンプレッサー 38 からのエアを上記したようにもみ用のエアバッグ 19～22 に供給し、エアバッグ 19～22 を膨脹させる。

【0030】

これにより、利用者の左の下腿がステップ S10 とは異なる位置でエアバッグ 19、20 により挟み付けられるように押圧されると共に、利用者の右の下腿がステップ S10 とは異なる位置でエアバッグ 21、22 により挟み付けられるように押圧される。この押圧が終了すると演算制御回路 36 はステップ S14 に移行する。

ステップ S14

このステップ S14 において演算制御回路 36 は、エアコンプレッサー 38 を停止させると共に、エア給排気弁 39 を作動制御してこのエア給排気弁 39 の第 2、第 3 ポートを連通させ、エアバッグ 19～22 からのエアを上記したように大気に排気させ、エアバッグ 19～22 を収縮させる。これにより、利用者の左の下腿を挟持しているエアバッグ 19、20 の挟持力が解放されると共に、利用者の右の下腿を挟持しているエアバッグ 21、22 の挟持力が解放される。この動作が終了すると演算制御回路 36 はステップ S15 に移行する。

ステップ S15

このステップ S15 において演算制御回路 36 は、エアコンプレッサー 38 を

更に所定時間だけ作動させると共に、エア給排気弁40を作動制御してこのエア給排気弁40の第1, 第2ポートを連通させ、エアコンプレッサー38からのエアを上記したように脚支持部材スイング用のエアバッグ27, 28に供給し、エアバッグ27, 28を最大に膨脹させる。この後、演算制御回路36は、更にエア給排気弁40を作動制御して第2ポートと第1, 第3ポートとの連通を遮断し、エアバッグ27, 28とエアコンプレッサー38及び大気との連通を遮断させた状態とする。

【0031】

このエアバッグ27, 28の膨脹により利用者の左の下腿を支持する脚支持部材15, 16が支持軸14を中心に最大に回動スイングさせられて、脚支持部材15, 16の下腿配設溝15a, 16aが傾斜した状態に対向した状態となった後、ステップS16に移行する。

ステップS16

このステップS16において演算制御回路36は、エアコンプレッサー38を作動させると共に、エア給排気弁39を作動制御してこのエア給排気弁39の第1, 第2ポートを連通させ、エアコンプレッサー38からのエアを上記したようにもみ用のエアバッグ19~22に供給し、エアバッグ19~22を膨脹させる。

【0032】

これにより、利用者の左の下腿がステップS10, 13とは更に異なる位置でエアバッグ19, 20により挟み付けるように押圧されると共に、利用者の右の下腿がステップS10, 13とは更に異なる位置でエアバッグ21, 22により挟み付けるように押圧される。この押圧が終了すると演算制御回路36はステップS17に移行する。

ステップS17

このステップS17において演算制御回路36は、エアコンプレッサー38を停止させると共に、エア給排気弁39を作動制御してこのエア給排気弁39の第2, 第3ポートを連通させ、エアバッグ19~22からのエアを上記したように大気に排気させ、エアバッグ19~22を収縮させる。これにより、利用者の左

の下腿を挟持しているエアバッグ19, 20の挟持力が解放されると共に、利用者の右の下腿を挟持しているエアバッグ21, 22の挟持力が解放される。この動作が終了すると演算制御回路36はステップS18に移行する。

ステップS18

このステップS18において演算制御回路36は、エアコンプレッサー38を停止させると共に、エア給排気弁40を作動制御してこのエア給排気弁40の第2, 第3ポートを連通させ、脚支持部材スイング用のエアバッグ27, 28からのエアを最大量の半分だけ大気に排気させて、エアバッグ27, 28を半分だけ収縮させる。この後、演算制御回路36は、更にエア給排気弁40を作動制御して第2ポートと第1, 第3ポートとの連通を遮断し、エアバッグ27, 28とエアコンプレッサー38及び大気との連通を遮断させた状態とする。

【0033】

このエアバッグ27, 28の収縮により利用者の左の下腿を支持する脚支持部材15, 16が支持軸14を中心に最大スイング量の略半分だけ現状に復帰する方向に回動させられて停止し、ステップS19に移行する。

ステップS19

このステップS19において演算制御回路36は、エアコンプレッサー38を作動させると共に、エア給排気弁39を作動制御してこのエア給排気弁39の第1, 第2ポートを連通させ、エアコンプレッサー38からのエアを上述したようにもみ用のエアバッグ19~22に供給し、エアバッグ19~22を膨脹させる。

【0034】

これにより、利用者の左の下腿がステップS13と略同じ位置でエアバッグ19, 20により挟み付けるように押圧されると共に、利用者の右の下腿がステップS13と略同じ位置でエアバッグ21, 22により挟み付けるように押圧される。この押圧が終了すると演算制御回路36はステップS20に移行する。

ステップS20

このステップS20において演算制御回路36は、エアコンプレッサー38を停止させると共に、エア給排気弁39を作動制御してこのエア給排気弁39の第

2, 第3ポートを連通させ、エアバッグ19~22からのエアを上記したように大気に排気させ、エアバッグ19~22を収縮させる。これにより、利用者の左の下腿を挟持しているエアバッグ19, 20の挟持力が解放されると共に、利用者の右の下腿を挟持しているエアバッグ21, 22の挟持力が解放される。この動作が終了すると演算制御回路36はステップS21に移行する。

ステップS21

このステップS21において演算制御回路36は、エアコンプレッサー38を停止させると共に、エア給排気弁40を作動制御してエア給排気弁40の第2, 第3ポートを連通させ、脚支持部材スイング用のエアバッグ27, 28からのエアの大半を大気に排気させて、エアバッグ27, 28を最小に収縮させる。

【0035】

このエアバッグ27, 28の収縮により利用者の左の下腿を支持する脚支持部材15, 16が支持軸14を中心に回転させられて、ステップS1で示した初期位置に復帰させられて、ステップS22に移行する。

ステップS22

このステップS22において演算制御回路36は、エアコンプレッサー38を作動させると共に、エア給排気弁39を作動制御してこのエア給排気弁39の第1, 第2ポートを連通させ、エアコンプレッサー38からのエアを上記したようにもみ用のエアバッグ19~22に供給し、エアバッグ19~22を膨張させる。

【0036】

これにより、利用者の左の下腿がステップS10と略同じ位置でエアバッグ19, 20により挟み付けるように押圧されると共に、利用者の右の下腿がステップS10と略同じ位置でエアバッグ21, 22により挟み付けるように押圧される。この押圧が終了すると演算制御回路36はステップS23に移行する。

ステップS23

このステップS23において演算制御回路36は、エアコンプレッサー38を停止させると共に、エア給排気弁39を作動制御してこのエア給排気弁39の第2, 第3ポートを連通させ、エアバッグ19~22からのエアを上記したように

大気に排気させ、エアバッグ19～22を収縮させる。これにより、利用者の左の下腿を挟持しているエアバッグ19, 20の挟持力が解放されると共に、利用者の右の下腿を挟持しているエアバッグ21, 22の挟持力が解放される。この動作が終了すると演算制御回路36はステップS3に移行する。

ステップS3

このステップS3において演算制御回路36は、右側の(b)で示したように脚載せ台8が鉛直方向に延びた状態か或いは(a)に示したように水平な状態にあるかに拘わらず、エア給排気弁41を作動制御して、上述したように昇降スイング用のエアバッグ31～34のエアを大気に排気させ、脚載せ台8を(c)の如く鉛直方向に向けさせ、ステップS4に移行させる。

ステップS4

このステップS3において演算制御回路36は、ステップS10～ステップS23の基本もみ動作を実行させてステップS5に移行する。

ステップS5

このステップS3において演算制御回路36は、エアコンプレッサー38を作動させると共に、エア給排気弁41を作動制御してこのエア給排気弁41の第1, 第2ポートを連通させ、上述したように昇降スイング用のエアバッグ31～34にエアを供給してエアバッグ31～34を膨脹させ、脚載せ台8を(d)の如く水平になるまで上方に回動スイングさせ、ステップS6に移行させる。

ステップS6

このステップS6において演算制御回路36は、コースマッサージの動作が終了したか否かを判断する。この判断において、コースマッサージの動作が終了していなければ、ステップS7に移行する。また、ステップS1～ステップS5のマッサージが設定された回数実行されてコースマッサージの動作が終了していれば、ステップS8に移行する。

ステップS7

このステップS7において演算制御回路36は、停止スイッチ47が押されたか否かを判断する。そして、停止スイッチ47が押されていないならばステップS8に移行し、押されていればステップS8に移行する。

ステップ S 8

尚、ステップ S 1, ステップ S 2 の基本もみ動作 (ステップ S 10 ~ ステップ S 23 の各処理動作), ~ ステップ S 5 の各処理動作において、演算制御回路 36 は各動作が終了するまでの間は常に停止スイッチ 47 が押されたか否かを判断している。そして、停止スイッチ 47 が押されたと判断されると、本ステップ S 8 に移行する様になっている。

【0037】

このステップ S 8 において演算制御回路 36 は、エアコンプレッサー 38 を停止させると共に、脚支持部材スイング用のエアバッグ 27, 28 をエア給排気弁 40 を介して大気に連通させ、エアバッグ 27, 28 内のエアを排気させることにより、右側に図示したように脚支持部材 15, 16 の角度が付いていない状態にして、ステップ S 9 に移行する。

【0038】

尚、この際、エア給排気弁 39 を作動制御してエア給排気弁 39 の第 2, 第 3 ポートを連通させ、エアバッグ 19 ~ 22 からのエアを上記したように大気に排気させ、エアバッグ 19 ~ 22 を収縮させることにより、利用者の左の下腿を挟持しているエアバッグ 19, 20 の挟持力を解放させると共に、利用者の右の下腿を挟持しているエアバッグ 21, 22 の挟持力を解放させる様にすることもできる。

ステップ S 9

このステップ S 9 において演算制御回路 36 は、電源スイッチ 44 が押されたか否かを判断する。そして、電源スイッチ 44 が押されていないならばステップ S 1 に戻ってループし、押されていれば終了する。

【0039】

このステップ S 9 からステップ S 1 を経てステップ S 2 の基本もみ動作に移行した場合、脚載せ台 8 は略水平になっている状態となる。また、ステップ S 3 を経てステップ S 4 の基本もみ動作を行う場合は、脚載せ台 8 は鉛直方向に向けられた状態となっている。従って、このステップ S 2 のもみ動作とステップ S 4 の基本もみ動作では、エアバッグ 19 ~ 22 による利用者の下腿のマッサージ部位

が下腿の長手方向の異なる位置となる。即ち、ステップ S 2 のもみ動作時にエアバッグ 19～22 が利用者の下腿をマッサージする部位は、ステップ S 4 のもみ動作時にエアバッグ 19～22 が利用者の下腿をマッサージする部位よりも、下腿の下側に移動する。尚、エアバッグ 19～22 はある程度の広がり（面積）があるので、部分的にはマッサージ部位が同じ部分もある。

【0040】

以上説明したように、この発明の実施の形態の第 1 のマッサージ装置は、利用者の被施療部（下腿）を配設させる配置溝（下腿配設溝 15 a, 16 a）が設けられ且つ前記配置溝（下腿配設溝 15 a, 16 a 9）の周方向に回動可能に設けられた支持部材（脚支持部材 15, 16）を有する施療部載せ台（脚載せ台 8）と、前記支持部材（脚支持部材 15, 16）を前記配置溝（下腿配設溝 15 a, 16 a）の周方向に回動させる回動手段（エアバッグ 27, 28）を備えている。また、このマッサージ装置は、前記配置溝（下腿配設溝 15 a, 16 a）に設けられた施療子（エアバッグ 19～22）と、前記施療子（エアバッグ 19～22）を作動させて前記被施療部（下腿）を前記施療子（エアバッグ 19～22）によりマッサージさせる施療子作動手段（エア給排気手段 35）と、前記回動手段（エアバッグ 27, 28）及び前記施療子作動手段（エア給排気手段 35）を作動制御する制御手段（演算制御回路 36）を備えている。更に、このマッサージ装置の前記制御手段（演算制御回路 36）は、前記回動手段（エアバッグ 27, 28）を作動させて支持部材（脚支持部材 15, 16）を前記配置溝（下腿配設溝 15 a, 16 a）の周方向に回動させる回動動作をさせながら、前記施療子作動手段（エア給排気手段 35）を作動させて前記被施療部（下腿）を前記施療子（エアバッグ 19～22）によりマッサージさせる様になっている。

【0041】

この構成によれば、脚支持部材 15, 16 を回動させながら利用者の被施療部（下腿）をマッサージするので、利用者の被施療部（下腿）のマッサージ部位を被施療部（下腿）の周方向に変更できる。

【0042】

尚、本実施例では、施療子としてエアバッグ 19～22 を用いているが、施療

子はエアバッグ19～22に限定されるものではない。例えば、バイブレータや駆動手段で作動する指圧子であっても良い。この場合、指圧子は、エアバッグや、駆動モータの回転を往復動に変換する機械的駆動機構を用いて下腿に対して押圧されるような構成としても良い。また、本実施例では、回動手段としてエアバッグ27, 28を用いているが、必ずしもこれに限定されるものではない。例えば、回動手段としては、ソレノイドや、エアシリンダ或いは油圧シリンダ等のアクチュエータを用いることもできるし、駆動モータと減速機構を組み合わせた機械的構成を用いることもできる。

【0043】

また、本実施例では、脚支持部材15, 16の回動手段（エアバッグ27, 28）による回動動作と、施療子（エアバッグ19～22）の動作（エアバッグ19～22の場合は膨張・収縮）とを交互に行っているが、必ずしもこれに限定されるものではない。例えば、この回動動作と施療子の動作とはランダムに行うようにしても良い。ここで、回動動作とは、連続的な回動や間欠的な回動のいずれの回動動作も含まれる。また、間欠的な回動でも、この間欠的な回動が続いて数回生ずるので、この様な間欠的な回動の連続は一連の動作の中であれば連続動作とすることができる。

【0044】

また、この発明の実施の形態の第2のマッサージ装置では、前記施療子が前記配置溝（下腿配設溝15a（16a））の対向する側壁15a1と15a2の少なくとも一方（側壁16a1と16a2の少なくとも一方）に取り付けられたエアバッグ19又は20（エアバッグ21又は22）であり、前記施療子作動手段（エアバッグ19～22）が前記エアバッグ19又は20（エアバッグ21又は22）にエアを給排気して前記エアバッグ19又は20（エアバッグ21又は22）を膨張・収縮させるエア給排気手段35である。しかも、前記制御手段（演算制御回路36）は、前記回動手段（エアバッグ27, 28）を制御して、前記エアバッグ19又は20（エアバッグ21又は22）が排気状態の（収縮させられた）とき前記回動動作をさせ且つ前記エアバッグ19又は20（エアバッグ21又は22）が給気状態の（膨張させられた）とき前記回動動作を停止させるこ

とにより、前記支持部材（脚支持部材 15, 16）を前記配置溝（下腿配設溝 15a, 16a）の周方向に間欠的に回動させながら、前記エアバッグ 19～22 で前記被施療部（下腿）を間欠的にマッサージする様になっている。

【0045】

この構成によれば、エアバッグ 19 又は 20（エアバッグ 21 又は 22）が利用者の下腿を押圧していない状態で、脚支持部材 15, 16 を回動させるので、利用者の下腿に負荷をかけることなく、下腿のマッサージ部位を下腿の周方向に変更できる。

（変形例 1）

更に、この発明の実施の形態の他のマッサージ装置では、上述したように前記施療子を前記配置溝（下腿配設溝 15a（16a））の対向する側壁 15a1 と 15a2 の少なくとも一方（側壁 16a1 と 16a2 の少なくとも一方）に取り付けられたエアバッグ 19 又は 20（エアバッグ 21 又は 22）とすることができると共に、前記施療子作動手段（エアバッグ 19～22）を前記エアバッグ 19 又は 20（エアバッグ 21 又は 22）にエアを給排気して前記エアバッグ 19 又は 20（エアバッグ 21 又は 22）を膨張・収縮させるエア給排気手段 35 とすることができる。しかも、これに加えて前記制御手段（演算制御回路 36）は、前記回動手段（エアバッグ 27, 28）を制御して、前記エアバッグ 19 又は 20（エアバッグ 21 又は 22）が給気状態の（膨張させられた）とき前記回動動作をさせることにより、前記エアバッグ 19 又は 20（エアバッグ 21 又は 22）で前記被施療部（下腿）をマッサージする様にすることもできる。

【0046】

この構成によれば、上述とは逆に、エアバッグ 19 又は 20（エアバッグ 21 又は 22）により利用者の下腿を挟持した状態で、脚支持部材 15, 16 が下腿配設溝 15a, 16a の周方向に回動動作させられるので、下腿のもみ動作に加えて下腿の捻り動作が行われる。

（変形例 2）

また、この発明の実施形態のマッサージ装置では、第 1, 第 2 のマッサージ装置において、前記施療部載せ台は椅子 1 の座部 5 の前側下部に上下回動可能に取り

り付けられる脚載せ台 8 であり、前記脚載せ台 8 を上下駆動する台駆動手段 30 が設けられていると共に、前記制御手段（演算制御回路 36）は前記台駆動手段 30 を作動させて脚載せ台 8 を上下駆動させながら前記マッサージを行わせる様にできる。

【0047】

この構成によれば、利用者の下腿を上下にスイングしながら、利用者の下腿のマッサージ部位を下腿の長手方向に移動させることができると共に、脚支持部材 15、16 を回動させながら利用者の下腿をマッサージするので、利用者の下腿のマッサージ部位を下腿の周方向に変更できる。

（変形例 3）

以上説明したように、上述したマッサージ装置 2 は、椅子 1 の座部の前側下部に取り付けて利用者の左右の下腿のマッサージを同時に行うようにしたが、左右の下腿のマッサージを別々に行う様にしてもよいし、左右の下腿のマッサージを交互に行うようにしても良い。

【0048】

また、上述したマッサージ装置 2 は、椅子の座部や背凭れの人体当接面に、エアバッグを設けたマッサージ椅子に適用することもできる。

【0049】

さらに、上述したマッサージ装置 2 の左右の脚支持部材 15、16 を別々の腕載せ台に腕支持部材として周方向に回動可能に取り付けると共に、この 2 つの載せ台を椅子の左右の肘掛けにそれぞれ後部を中心に上下駆動可能に装着して、左右の腕を左右の腕支持部材により上述したのと同様な動作によりマッサージするようにしてもよい。

【0050】

また、上述した脚支持部材 15、16 を有する脚載せ台や、腕支持部材（脚支持部材 15、16 と同じ構造）を有する腕載せ台は、マット式のマッサージ装置に用いることもできる。

（変形例 4）

以上説明した実施例の（2）のコースマッサージでは脚載せ台 8 を図 13 の（

c) の如く鉛直方向に向けさせた状態で、ステップ S10～ステップ S23 の基本もみ動作を実行させるようにしたが必ずしもこれに限定されるものではない。

【0051】

例えば、脚載せ台 8 の上昇回動と降下回動（上昇回動より少ない）を交互に繰り返しながら、最終的には脚載せ台 8 を下方を向いた状態から水平になるまで上方に回動させ、或いは、脚載せ台 8 の降下回動と上昇回動（降下回動より少ない）を交互に繰り返しながら、脚載せ台 8 を水平な状態から下方を向いた状態になるまで下方に回動させる様にしても良い。

【0052】

即ち、脚載せ台 8 を所定量 X1 だけ上方向に駆動させてステップ S10～ステップ S23 の基本もみ動作（マッサージ）を実行させた後、脚載せ台 8 を所定量 X1 より少ない量 X2 だけ下方向に駆動させてステップ S10～ステップ S23 の基本もみ動作（マッサージ）を実行させる動作を上昇スイングもみ動作としたとき、この上昇スイングもみ動作を脚載せ台 8 が図 13 の（c）の如く鉛直方向に向いた状態から図 13 の（d）の水平になるまでの範囲内で実行させるようにしてもよい。また、この逆にして降下スイングもみ動作をさせても良い。

【0053】

以下、この実施例について詳述する。ここで、説明の便宜上、支持軸 11 を回転中心とする脚載せ台 8 の前側下端角部 C の回動角を θ_i ($i=0, 1, 2, 3 \dots n$) として説明する。即ち、脚載せ台 8 が図 13 の（c）の如く鉛直方向で下方を向いたときの最下端の回動角 θ_0 から脚載せ台 8 が図 13 の（d）の如く水平方向に向いたときの最上端の回動角 θ_n までを所定角度 $\Delta\theta$ で n 分割して説明する。

（i）脚載せ台 8 の上昇スイング動作に伴うマッサージ

<回動角 θ_3 , θ_1 におけるマッサージ>

まず、演算制御回路 36 は、エアコンプレッサー 38 を作動させると共にエア給排気弁（エア給排気手段）41 を作動制御して、このエア給排気弁 41 の第 1, 第 2 ポートを連通させ、上述したように昇降スイング用のエアバッグ 31～34 にエアを所定量供給してエアバッグ 31～34 を所定量膨脹させ、脚載せ台 8

を所定角度例えば回動角 θ_0 から回動角 θ_3 まで $3\Delta\theta$ だけ上方に回動スイングさせる。この位置で演算制御回路 36 は、エア給排気弁 41 を作動制御して、このエア給排気弁 41 の第 2 ポートと第 1, 第 3 ポートとの連通を遮断し、脚載せ台 8 を回動角 θ_3 の位置で停止させる。

【0054】

一方、演算制御回路 36 は、脚載せ台 8 が回動角 θ_3 の位置にある状態で上述した図 14 のステップ S10～23 の基本動作を実行させ、利用者の左の下腿をエアバッグ 19, 20 により挟み付けるようにマッサージすると共に、利用者の右の下腿をエアバッグ 21, 22 により挟み付けるようにマッサージする。

【0055】

次に、演算制御回路 36 は、エア給排気弁（エア給排気手段）41 を作動制御して、このエア給排気弁 41 の第 1, 第 2 ポートとの連通を遮断させると共に、エア給排気弁 41 の第 2, 第 3 ポートとを連通させて、昇降スイング用のエアバッグ 31～34 を大気に連通させ、エアバッグ 31～34 のエアを所定量大気に排気させ、脚載せ台 8 を回動角 θ_3 から回動角 θ_1 まで $2\Delta\theta$ だけ下方に回動スイングさせる。

【0056】

この位置で演算制御回路 36 は、エア給排気弁 41 を作動制御して、このエア給排気弁 41 の第 2 ポートと第 1, 第 3 ポートとの連通を遮断し、脚載せ台 8 を回動角 θ_1 の位置で停止させる。そして、演算制御回路 36 は、脚載せ台 8 が回動角 θ_3 の位置にある状態で上述した図 14 のステップ S10～23 の基本動作を実行させ、利用者の左の下腿をエアバッグ 19, 20 により挟み付けるようにマッサージすると共に、利用者の右の下腿をエアバッグ 21, 22 により挟み付けるようにマッサージする。

【0057】

この様に演算制御回路 36 は、脚載せ台 8 を $3\Delta\theta$ だけ上昇スイングさせた位置で下腿のマッサージを実行した後、脚載せ台 8 を $2\Delta\theta$ だけ降下スイングさせた位置で下腿のマッサージを実行させる。しかも、演算制御回路 36 は、この動作を脚載せ台 8 が略水平になる回動角 θ_n まで繰り返し実行する。

(ii)脚載せ台 8 の降下スイング動作に伴うマッサージ

また、脚載せ台 8 を降下スイングさせる際は、脚載せ台 8 を $3 \Delta \theta$ だけ降下スイングさせた位置で下腿のマッサージを実行した後、脚載せ台 8 を $2 \Delta \theta$ だけ上昇スイングさせた位置で下腿のマッサージを実行させる。しかも、演算制御回路 36 は、この動作を脚載せ台 8 が略鉛直に下方を向く回動角 θ_0 まで繰り返し実行する。

【0058】

この様な(i)の上昇スイングもみ動作を実行させることで、下腿の脛ら脛のマッサージポイントが下腿の下部側から上部側に変化させられるので、下腿の脛ら脛のマッサージポイントを下部側から上部側に移動させることができると共に、マッサージが単調とならず、マッサージ効果が向上する。また、(ii)の降下スイングもみ動作を実行させることで、下腿の脛ら脛のマッサージポイントが下腿の上部側から下部側に変化させられるので、下腿の脛ら脛のマッサージポイントを上部側から下部側に移動させることができると共に、マッサージが単調とならず、マッサージ効果が向上する。

【0059】

以上説明したように、この発明の実施の形態のマッサージ装置では、前記制御手段（演算制御回路 36）は、前記脚載せ台 8 を所定量だけ上方又は下方の一方方向に駆動させて前記マッサージを行わせた後、前記脚載せ台 8 を所定量より少ない量だけ前記一方向とは反対方向に駆動させて前記マッサージを行わせる動作を所定範囲内で繰り返す様にしている。

【0060】

この構成によれば、下腿の脛ら脛のマッサージポイントが下腿の長手方向に変化させられるので、下腿の脛ら脛全体のマッサージを行うことができると共に、マッサージが単調とならず、マッサージ効果が向上する。

(iii)その他

尚、このような脚載せ台 8 の上昇又は降下スイング時の回動角 θ_i への移動動作と停止動作は、エアバッグ 31～34 へのエアの供給量すなわちエアの供給時間から決定して実行しても良いし、脚載せ台 8 の回動角をセンサ（例えば、ロー

タリーエンコーダやマイクロスイッチ、或いは発光素子と受光素子を組み合わせた光センサ等)で検出して実行しても良い。

(変形例5)

以上説明した実施例の(2)のコースマッサージでは、エアバッグ27, 28の膨張により脚支持部材15, 16を支持軸14を中心に閉方向に回動させた後、エアバッグ27, 28の収縮により脚支持部材15, 16を支持軸14を中心に開方向に回動させる様にすると共に、これらの閉方向と開方向への脚支持部材15, 16の回動動作を2回に分ける様にしているが、必ずしもこれに限定されるものではない。

【0061】

例えば、脚支持部材15, 16を閉方向へ所定量回動させた後に、脚支持部材15, 16をこの所定量より少ない量だけ開方向に回動させる動作を基本開閉動作とすると、この基本開閉動作を繰り返し実行しながら下腿のマッサージを実行させ、最終的には脚支持部材15, 16が最大に開いた状態(180°の状態)から所定角度になるまで回動させる様にしても良い。

【0062】

また、これとは逆に、脚支持部材15, 16を開方向へ所定量回動させた後に、脚支持部材15, 16をこの所定量よりも少ない量だけ閉方向に回動させる動作を基本開閉動作とすると、この基本開閉動作を繰り返し実行しながら下腿のマッサージを実行させ、最終的には脚支持部材15, 16が所定角度の状態から最大に開いた状態(180°の状態)になるまで回動させる様にしてもよい。

【0063】

以下、これらの制御について説明する。

<基本動作>

(イ) エアバッグ27, 28による脚支持部材15, 16の開動作

演算制御回路36は、エアコンプレッサー38を所定時間だけ作動させると共に、エア給排気弁40を作動制御してこのエア給排気弁40の第1, 第2ポートを連通させ、エアコンプレッサー38からのエアを上述したように脚支持部材スイング用のエアバッグ27, 28に供給し、エアバッグ27, 28をある量だけ

膨脹させる。この後、演算制御回路 36 は、更にエア給排気弁 40 を作動制御してこのエア給排気弁 40 の第 2 ポートを第 1, 第 3 ポートに対して遮断させて、エアバッグ 27, 28 とエアコンプレッサー 38 及び大気との連通を遮断させた状態とする。

【0064】

このエアバッグ 27, 28 の膨脹により、利用者の下腿を支持する脚支持部材 15, 16 が支持軸 14 を中心に閉方向にある量だけ回動させられる。

(ロ) エアバッグ 27, 28 による脚支持部材 15, 16 の開動作

また、演算制御回路 36 は、エアコンプレッサー 38 を停止させると共に、エア給排気弁 40 を作動制御してこのエア給排気弁 40 の第 2, 第 3 ポートを連通させ、脚支持部材スイング用のエアバッグ 27, 28 からのエアを所定時間だけ大気に排気させて、エアバッグ 27, 28 をある量だけ収縮させる。この後、演算制御回路 36 は、更にエア給排気弁 40 を作動制御して第 2 ポートと第 1, 第 3 ポートとの連通を遮断し、エアバッグ 27, 28 とエアコンプレッサー 38 及び大気との連通を遮断させた状態とする。

【0065】

このエアバッグ 27, 28 の収縮により利用者の左の下腿を支持する脚支持部材 15, 16 が支持軸 14 を中心に開方向にある量だけ回動させられる。

(ハ) エアバッグ 19～22 による下腿マッサージ動作

演算制御回路 36 は、エアコンプレッサー 38 を作動させると共に、エア給排気弁 39 を作動制御してこのエア給排気弁 39 の第 1, 第 2 ポートを連通させ、エアコンプレッサー 38 からのエアを上述したようにもみ用のエアバッグ 19～22 に供給し、エアバッグ 19～22 を膨脹させる。これにより、利用者の左の下腿がエアバッグ 19, 20 により挟み付けるように押圧マッサージされると共に、利用者の右の下腿がエアバッグ 21, 22 により挟み付けるように押圧マッサージされる。

【0066】

一方、演算制御回路 36 は、エアコンプレッサー 38 を停止させると共に、エア給排気弁 39 を作動制御してこのエア給排気弁 39 の第 2, 第 3 ポートを連通

させ、エアバッグ19～22からのエアを上述したように大気に排気させ、エアバッグ19～22を収縮させる。これにより、利用者の左の下腿を挟持しているエアバッグ19, 20の挟持力（マッサージ力）が解放されると共に、利用者の右の下腿を挟持しているエアバッグ21, 22の挟持力が解放される。

＜（イ）～（ロ）の基本動作を利用した制御＞

この変形例5では、（イ）の脚支持部材15, 16の開動作を所定量（所定角度）実行させて、（ハ）のマッサージ動作を実行させた後、（ロ）の脚支持部材15, 16の開動作を所定量（所定角度）よりも少ない量だけ実行させ、（ハ）のマッサージ動作を実行させる。この様な、脚支持部材15, 16の開閉動作及びマッサージ動作を、所定範囲内で即ち脚支持部材15, 16が最大に開いた状態（180°）の状態から脚支持部材15, 16が所定角度になるまで繰り返し実行させる。

【0067】

この後、（ロ）の脚支持部材15, 16の開動作を所定量（所定角度）実行させて、（ハ）のマッサージ動作を実行させた後、（イ）の脚支持部材15, 16の開動作を所定量（所定角度）よりも少ない量だけ実行させ、（ハ）のマッサージ動作を実行させる。この様な、脚支持部材15, 16の開閉動作及びマッサージ動作を、所定範囲内で即ち脚支持部材15, 16が所定角度になっている状態から脚支持部材15, 16が最大に開いた状態（180°）の状態になるまで繰り返し実行させる。

【0068】

この様な脚支持部材15, 16の開閉制御は、変形例4の脚載せ台8の繰り返し制御と同様にして実行できる。

【0069】

この様な動作を実行させることで、下腿の脛脛のマッサージポイントが周方向に変化させられるので、下腿の脛脛のマッサージポイントを周方向に移動させることができると共に、マッサージが単調とならず、マッサージ効果が向上する。

【0070】

以上説明したように、この発明の実施の形態のマッサージ装置では、前記制御手段（演算制御回路 36）は、前記支持部材（脚支持部材 15, 16）を所定量だけ周方向の一方向に駆動させて前記マッサージを行わせた後、前記支持部材（脚支持部材 15, 16）を前記所定量より少ない量だけ前記一方向とは反対方向に駆動させて前記マッサージを行わせる動作を所定範囲内で繰り返す様になっている。

【0071】

この構成によれば、下腿の脛のマッサージポイントが周方向に変化させられるので、下腿の脛のマッサージポイントを周方向に移動させることができると共に、マッサージが単調とならず、マッサージ効果が向上する。

（変形例 6）

（a）脚支持部材 15, 16 同士の閉じる動作 1

上述した図 14 のステップ S 12 では、エアバッグ 27 の膨張により、脚支持部材 15, 16 を互いに閉じる方向に（角度が小さくなる方向に）支持軸 14 を中心に所定量だけ回動させる様にしている。

（b）マッサージ動作 1

この後、ステップ S 13, 14 において、エアバッグ 19～22 の膨張・収縮による下腿のマッサージを行わせる動作を実行させるようにしている。

（c）脚支持部材 15, 16 同士の閉じる動作 2

更に、ステップ S 15 では、エアバッグ 27 を更に膨張させることにより、脚支持部材 15, 16 を更に互いに閉じる方向に（角度が小さくなる方向に）支持軸 14 を中心に所定量だけ回動させる様にしている。

（d）マッサージ動作 2

この後、ステップ S 16, 17 において、エアバッグ 19～22 の膨張・収縮による下腿のマッサージを行わせる動作を実行させるようにしている。

（e）脚支持部材 15, 16 同士の開く動作 1

一方、図 14 のステップ S 18 では、エアバッグ 27 の収縮により、脚支持部材 15, 16 を互いに開く方向に（角度が大きくなる方向に）支持軸 14 を中心に所定量だけ回動させる様にしている。

(f) マッサージ動作 3

この後、ステップ S 19, 20 において、エアバッグ 19 ~ 22 の膨張・収縮による下腿のマッサージを行わせる動作を実行させるようにしている。

(g) 脚支持部材 15, 16 同士の開く動作 2

更に、ステップ S 21 では、エアバッグ 27 を更に収縮させることにより、脚支持部材 15, 16 を更に互いに開く方向に（角度が大きくなる方向に）支持軸 14 を中心に所定量だけ回動させる様にしている。

(f) マッサージ動作 4

この後、ステップ S 16, 17 において、エアバッグ 19 ~ 22 の膨張・収縮による下腿のマッサージを行わせる動作を実行させるようにしている。

【0072】

この変形例 6 では、(a) の脚支持部材 15, 16 同士の閉じる動作 1 の閉じ動作時間を t_1 とし、(c) の脚支持部材 15, 16 同士の閉じる動作 2 の閉じ動作時間を t_2 とし、(e) 脚支持部材 15, 16 同士の開く動作 1 の開動作時間を t_3 とし、(g) 脚支持部材 15, 16 同士の開く動作 2 の開動作時間を t_4 とすると、時間 $t_1 \sim t_4$ をランダムに設定するようにしている。

【0073】

例えば、閉じ動作時間 t_1 を 2 秒、閉じ動作時間 t_2 を 3 秒、開動作時間 t_3 を 1 秒、開動作時間 t_4 を 4 秒の様にする。この様な時間 $t_1 \sim t_4$ は、乱数表等を用いて演算制御回路 36 によりランダムに実行される。

【0074】

この様に時間 $t_1 \sim t_4$ をランダムにすることにより、エアバッグ 19, 20 による左足の下腿の周方向のマッサージ位置、及びエアバッグ 21, 22 による右足の下腿の周方向のマッサージ位置がランダムに変化させられる。

【0075】

これにより、左右の下腿の周方向の同じ位置をマッサージすることがなく、上述した (a) ~ (f) のマッサージ動作を繰り返す毎に、下腿を周方向に異なった位置でマッサージできるので、マッサージが単調になるのを防止できると共に、下腿の周方向の全ての位置をマッサージすることが可能となる。

【0076】

尚、全閉じ動作時間 $T1$ ($t1 + t2$) と全開動作時間 $T2$ ($t3 + t4$) とは同じになるように設定すると良い。

【0077】

尚、マッサージ動作 1～4 のマッサージ時間もランダムに設定することもできる。また、各マッサージ動作 1～4 におけるエアバッグ 19～22 の膨張・収縮回数や膨張・収缩量もランダムに設定することもできる。

【0078】

以上説明したように、この発明の実施の形態のマッサージ装置では、前記支持部材（脚支持部材 15, 16）が左右一対隣接して配置され且つ前記一対の支持部材（脚支持部材 15, 16）の配置溝（脚配設溝 15a, 16a）が互いに平行に設けられている。しかも、前記回動手段（エアバッグ 27, 28）は前記一対の配置溝（脚配設溝 15a, 16a）の開放端同士が互いに接近・離反する方向に前記一対の支持部材（脚支持部材 15, 16）を回動駆動させて前記一対の支持部材（脚支持部材 15, 16）を開閉させる様になっている。また、前記制御手段（演算制御回路 36）は前記一対の支持部材（脚支持部材 15, 16）の開閉時間がランダムになるように前記回動手段（エアバッグ 27, 28）を作動制御する様になっている。

【0079】

この構成によれば、一対の支持部材（脚支持部材 15, 16）の開閉時間 ($t1 \sim t4$) がランダムになるように設定されているので、施療子（エアバッグ 19, 20）による左足の下腿の周方向のマッサージ位置、や施療子（エアバッグ 21, 22）による右足の下腿の周方向のマッサージ位置がランダムに変化させられる。

【0080】

これにより、左右の下腿の周方向の同じ位置をマッサージすることがないので、一対の支持部材（脚支持部材 15, 16）の開閉と施療子（エアバッグ 19～22）によるマッサージ動作を繰り返す毎に、下腿を周方向に異なった位置でマッサージでき、マッサージが単調になるのを防止できると共に、下腿の周方向の

全ての位置をマッサージすることが可能となる。

【0081】

【発明の実施の形態2】

以上説明した実施例では、座部5と背凭れ6にエアバッグが設けられていない椅子1にマッサージ装置2を適用した例を示したが、必ずしもこれに限定されるものではない。例えば、図16に示した様に座部5や背凭れ6の人体当接面にエアバッグを設けたエアバッグ式椅子（下腿以外の上腿及び上半身用のマッサージ装置）1'に、下腿用のマッサージ装置2を適用した構成としても良い。以下、この下腿用のマッサージ装置2を有するエアバッグ式のマッサージ椅子1'について説明する。尚、上述した実施例と同じ部材及び同じ部分には上述した実施例で用いた符号を付して、その説明を一部省略して説明する。

【0082】

図16において、座部5の人体当接面（上面）の前側にはもも（大腿）用エアバッグ100が配設（装着）され、座部5の人体当接面（上面）の後部側にはもも（大腿）用エアバッグ101が配設されている。

【0083】

また、背凭れ6の人体当接面（前面）の下端部には左右に位置させて腰用エアバッグ102、102が配設され、背凭れ6の人体当接面（前面）の左右方向の中央部には上下に延びる背筋用エアバッグ103が配設されている。しかも、背凭れ6の人体当接面（前面）には、背筋用エアバッグ103の上下方向中央部の左右に位置させた背中用エアバッグ104、104が配設されている。

【0084】

更に、背凭れ6の人体当接面（前面）の上部には、背筋用エアバッグ103の上方に位置させて左右に延びる肩用エアバッグ105が配設されていると共に、肩用エアバッグ105よりも上方に位置させて首用エアバッグ106、106が配設されている。

【0085】

尚、肩用エアバッグ105は省略して、首用エアバッグ106、106により肩と首のマッサージを行うようにしても良い。しかし、本実施例では説明の便宜

上、肩用エアバッグ105と首用エアバッグ106、106が別々にあるタイプで説明する。

【0086】

この様なエアバッグ100～106は、図18に示したようにロータリーバルブ（エア分配手段、エア給排気手段35の一部）107及びエアホース100h～106hを介してエアホース19hに接続されている。尚、エアホース19hはエアコンプレッサー38のエア吐出口（図示せず）に接続されている。

【0087】

また、図18の演算制御回路36には、図16、図17のリモコン108が接続されている。このリモコン108には、図17、図18に示したように電源スイッチ109、スタートスイッチ110、停止スイッチ111、脚同時コース用のスイッチ112、ゆったりコース用のスイッチ113、マッサージ強を切り替える強さ切替スイッチ114が設けられている。

【0088】

また、リモコン108には、首肩マッサージ用のスイッチ115、ポイントマッサージ用のスイッチ116、マッサージ装置2のダブルスイング用のスイッチ117、背凭れ6をリクライニングさせるスイッチ118、背凭れ6をリクライニング状態から起立させるスイッチ119が設けられている。

【0089】

更に、リモコン108には、マッサージ装置2の脚載せ台8を上方に回動調整させるスイッチ120、脚載せ台8を下方に回動調整させるスイッチ121、マッサージ装置2の脚支持部材15、16同士を閉じる方向に回動調整させるスイッチ122、脚支持部材15、16同士を開く方向に回動調整させるスイッチ123、上下方向の肩マッサージ位置を調整させるスイッチ124が設けられている。

【0090】

そして、演算制御回路36は、マッサージ装置2のダブルスイング用のスイッチ117が押されると、エアコンプレッサー38を作動させると共に、エア給排気弁41を作動制御してエアバッグ31～34を膨張・収縮させて、脚載せ台8

を上下方向に回動スイングさせると共に、エア給排気弁40を作動制御してエアバッグ27, 28を膨張・収縮させて、脚支持部材15, 16同士が開閉制御させる一方、エア給排気弁39を作動制御してエアバッグ19～22を膨張・収縮させ、下腿の脛ら脛をエアバッグ19～22によりマッサージする様になっている。このマッサージは、上述した発明の実施の形態1の様な制御で実行することもできるし、上述した各変形例におけるような制御で実行することもできる。

【0091】

また、演算制御回路36は、スイッチ120の操作によりエアコンプレッサー38を作動させると共に、エア給排気弁41を作動制御してエアバッグ31～34を膨張させ、又はスイッチ121の操作により、エアコンプレッサー38の作動を停止させると共に、エア給排気弁41を作動制御してエアバッグ31～34からのエアを排気させて収縮させる様になっている。これにより、脚載せ台8が上下方向に回動スイングさせられて、上下方向の位置が調整される。

【0092】

また、演算制御回路36は、スイッチ122の操作によりエアコンプレッサー38を作動させると共に、エア給排気弁40を作動制御してエアバッグ27, 28を膨張させ、又はスイッチ123の操作により、エアコンプレッサー38の作動を停止させると共に、エア給排気弁40を作動制御してエアバッグ27, 28からのエアを排気させて収縮させる様になっている。これにより、脚支持部材15, 16同士が開閉調整されて、脚支持部材15, 16同士の角度が調整される。

【0093】

また、演算制御回路36は、上述の様に脚載せ台8の上下方向の調整位置、又は脚支持部材15, 16同士の開閉角度の調整位置で、スタートスイッチ110が押されると、その調整位置でエアコンプレッサー38を作動させると共に、エア給排気弁39を作動制御してエアバッグ19～22を膨張・収縮させ、下腿の脛ら脛をエアバッグ19～22によりマッサージする様になっている。

[作用]

次に、この様なマッサージ椅子1' (マッサージ装置) の演算制御回路36に

よる脚同時マッサージコースの作用を説明する。

【0094】

この様な構成において演算制御回路36は、上述したようにエア給排気弁39を作動制御してエアバッグ19～22を膨張・収縮させて、このエアバッグ19～22により下腿の脛ら脛をマッサージ（脚マッサージ）をする様になっている。

【0095】

また、演算制御回路36は、ロータリーバルブ107を作動制御してエアバッグ100～106を順に間欠的に膨張・収縮させる様になっている。そして、エアバッグ100の膨張・収縮によりもも（上腿）がマッサージされ、エアバッグ101の膨張・収縮によりしり（尻）がマッサージされ、エアバッグ102の膨張・収縮により腰がマッサージされ、エアバッグ103の膨張・収縮により背筋がマッサージされ、エアバッグ104の膨張・収縮により背中がマッサージされ、エアバッグ105の膨張・収縮により肩がマッサージされ、エアバッグ106の膨張・収縮により首がマッサージされる様になっている。

【0096】

しかも、演算制御回路36は、もも（上腿）、しり（尻）、腰、背筋、背中、肩、首等のマッサージをこの順に間欠的に実行するときに、脚マッサージを同時に実行するようになっている。また、演算制御回路36は、もも（上腿）、しり（尻）、腰、背筋、背中、肩、首等のマッサージをこの順に間欠的に実行する間で、マッサージ装置2の脚支持部材15、16の開閉制御を以下の様に実行するようになっている。

【0097】

即ち、リモコン108の電源スイッチ109をONさせて、脚同時スイッチ112をONさせ、スタートスイッチ110をONさせると、図19に示したフローチャートのマッサージ制御動作が開始される。

（A）マッサージ制御 I

そして、演算制御回路36は、上述した各エアバッグの膨張・収縮制御を実行して、ステップS200でもも（上腿）と下腿の脛ら脛を同時にマッサージさせ

た後、ステップ S 2 0 1 でマッサージ装置 2 の脚支持部材 1 5, 1 6 を所定量だけ閉じさせ、次にステップ S 2 0 2 でしり（尻）と下腿の脛ら脛を同時にマッサージさせた後、ステップ S 2 0 3 でマッサージ装置 2 の脚支持部材 1 5, 1 6 を更に所定量だけ閉じさせる。

【0098】

次に、演算制御回路 3 6 は、上述した各エアバッグの膨張・収縮制御を実行して、ステップ S 2 0 4 で腰と下腿の脛ら脛を同時にマッサージさせた後、ステップ S 2 0 5 でマッサージ装置 2 の脚支持部材 1 5, 1 6 を所定量だけ開き、次にステップ S 2 0 6 で背筋と下腿の脛ら脛を同時にマッサージさせた後、ステップ S 2 0 7 でマッサージ装置 2 の脚支持部材 1 5, 1 6 を更に所定量だけ開かせる。

【0099】

更に、演算制御回路 3 6 は、上述した各エアバッグの膨張・収縮制御を実行して、ステップ S 2 0 8 で背中と下腿の脛ら脛を同時にマッサージさせた後、ステップ S 2 0 9 でマッサージ装置 2 の脚支持部材 1 5, 1 6 を所定量だけ閉じさせ、次にステップ S 2 1 0 で肩と下腿の脛ら脛を同時にマッサージさせた後、ステップ S 2 1 1 でマッサージ装置 2 の脚支持部材 1 5, 1 6 を更に所定量だけ閉じさせ、ステップ S 2 1 2 で次に首と下腿の脛ら脛を同時にマッサージさせる。

(B) マッサージ制御 I I

この様なステップ S 2 0 0 ～ステップ S 2 2 2 ののマッサージ制御が実行された後、ステップ S 2 2 3 ～2 3 5 のマッサージ制御が実行される。

【0100】

即ち、演算制御回路 3 6 は、上述した各エアバッグの膨張・収縮制御を実行して、ステップ S 2 1 3 でもも（上腿）と下腿の脛ら脛を同時にマッサージさせた後、ステップ S 2 1 4 でマッサージ装置 2 の脚支持部材 1 5, 1 6 を所定量だけ開かせ、次にステップ S 2 1 5 でしり（尻）と下腿の脛ら脛を同時にマッサージさせた後、ステップ S 2 1 6 でマッサージ装置 2 の脚支持部材 1 5, 1 6 を更に所定量だけ開かせる。

【0101】

次に、演算制御回路 36 は、上述した各エアバッグの膨張・収縮制御を実行して、ステップ S 217 で腰と下腿の脹ら脛を同時にマッサージさせた後、ステップ S 218 でマッサージ装置 2 の脚支持部材 15, 16 を所定量だけ閉じさせ、次にステップ S 219 で背筋と下腿の脹ら脛を同時にマッサージさせた後、ステップ S 220 でマッサージ装置 2 の脚支持部材 15, 16 を更に所定量だけ閉じさせ。

【0102】

更に、演算制御回路 36 は、上述した各エアバッグの膨張・収縮制御を実行して、ステップ S 221 で背中と下腿の脹ら脛を同時にマッサージさせた後、ステップ S 222 でマッサージ装置 2 の脚支持部材 15, 16 を所定量だけ開かせ、次にステップ S 223 で肩と下腿の脹ら脛を同時にマッサージさせた後、ステップ S 224 でマッサージ装置 2 の脚支持部材 15, 16 を更に所定量だけ開かせ、ステップ S 225 で次に首と下腿の脹ら脛を同時にマッサージさせる。

(C) 繰り返しマッサージ制御

そして、演算制御回路 36 は、脚同時スイッチ 112 を ON させ、スタートスイッチ 110 を ON させると、上述した同時マッサージコースのマッサージ制御 I, マッサージ制御 II を繰り返し実行する。この際、停止スイッチ 111 が押されると、マッサージ制御が停止される。尚、この様な同時マッサージコースのマッサージ制御 I, マッサージ制御 II は所定回数だけ繰り返し実行して、終了するようにしても良い。

【0103】

この様なマッサージ制御 I とマッサージ制御 II とでは、もも（上腿），しり（尻），腰，背筋，背中，肩，首等のマッサージ等の各部部分をマッサージした後の脚支持部材 15, 16 の開閉制御が逆になるので、マッサージが単調にならず、マッサージ効果が向上する。

【0104】

また、同時マッサージコースのマッサージ制御 I, マッサージ制御 II に際して、発明の実施の形態 1 の様なマッサージ装置 2 の制御、或いは上述した各変形例のマッサージ装置 2 の制御を組み合わせることもできる。

【0105】

以上説明したように、この発明の実施の形態のマッサージ装置では、前記施療部載せ台は椅子（マッサージ椅子 1'）と組み合わせて利用される脚載せ台 8 であり、前記脚載せ台 8 に設けた支持部材 15、16 の配置溝（脚配設溝 15a、16a）には前記被施療部としての下腿の脛ら脛をマッサージする脛ら脛用施療子（エアバッグ 19～22）が配置され、前記椅子の人体当接面には前記利用者の前記脛ら脛より上部の部分のマッサージを行わせる椅子用施療子（エアバッグ 100～106）が設けられている。また、このマッサージ装置の前記制御手段（演算制御回路 36）は、前記施療子作動手段（エア給排気手段 35）を作動させて前記下腿の脛ら脛を前記脛ら脛用施療子（エアバッグ 19～22）によりマッサージさせると同時に前記椅子用施療子（エアバッグ 100～106）により前記利用者の前記脛ら脛より上部の部分のマッサージを行わせる様にしている。

【0106】

この様な構成によれば、利用者の下腿と下腿より上部の部分の一部とを同時にマッサージできるので、マッサージ効果が増大する。しかも、この同時マッサージを間欠的に繰り返す間に脚支持部材 15、16 の開閉動作を組み合わせることで、同時マッサージの後に脚支持部材 15、16 を自動的に開閉して、下腿のマッサージポイントを下腿の周方向に自動的に変化させることができ、マッサージ効果が向上する。

【0107】

また、この発明の実施の形態のマッサージ装置では、前記脛ら脛用施療子（エアバッグ 19～22）と前記椅子用施療子（エアバッグ 100～106）とを同時に作動させるためのスイッチ 112 を有する。この構成によれば、スイッチ 112 の操作により利用者の下腿と下腿より上部の部分の一部とを同時にマッサージできる。また、このスイッチ 112 の操作をしなければ、マッサージ装置 2 によるマッサージのみを種々の状態（発明の実施の形態 1 及び変形例）で実行したり、或いはマッサージ装置 2 の動作を停止させて下腿以外のマッサージを実行させるようにすることもできる。尚、マッサージ装置 2 によるマッサージの場合、発明の実施の形態 2 で説明したように、脚載せ台 8 の上下回動調整及び脚支持部

材 15, 16 の開閉調整をした後、この調整位置でエアバッグ 19 ~ 22 による下腿のマッサージのみを実行させることができる。

【0108】

【発明の効果】

以上説明したように、この発明によれば、支持部材を回転させながら利用者の被施療部をマッサージするので、利用者の被施療部のマッサージ部位を被施療部の周方向に変更できる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

この発明に係るマッサージ装置を備える椅子の斜視図である。

【図 2】

図 1 の椅子の正面図である。

【図 3】

図 1 の脚載せ台の概略断面図である。

【図 4】

図 3 の脚載せ台の作用説明図である。

【図 5】

図 5 は図 3 の回転手段であるエアバッグの取り付け部の拡大断面図である。

【図 6】

図 3 の脚載せ台本体と脚支持部材との関係を示す概略斜視図である。

【図 7】

図 3 の支持ブラケットとバッグ支持部材との配置関係を示す分解斜視図である。

【図 8】

図 1, 図 2 の椅子とマッサージ装置との関係を示す作用説明図である。

【図 9】

図 8 の椅子に対するマッサージ装置の脚載せ台の作用説明図である。

【図 10】

図 8 の椅子に対するマッサージ装置の脚載せ台の作用説明図である。

【図 11】

図 8 の椅子に対するマッサージ装置の脚載せ台の作用説明図である。

【図 12】

図 1 ～図 12 のマッサージ装置の制御回路図である。

【図 13】

図 12 の演算制御回路によるマッサージ装置の制御動作を示すフローチャートである。

【図 14】

図 13 に示したフローチャートにおける基本もみ動作を説明するフローチャートである。

【図 15】

この発明のマッサージ装置の変形例を示す説明図である。

【図 16】

この発明の実施の形態 2 のマッサージ装置の正面図である。

【図 17】

図 16 に示したリモコンの拡大説明図である。

【図 18】

図 16 のマッサージ装置の制御回路図である。

【図 19】

図 18 の制御回路によるマッサージ装置の制御のフローチャートである。

【図 20】

図 18 の制御回路によるマッサージ装置の制御のフローチャートである。

【符号の説明】

8・・・脚載せ台（施療部載せ台）

15, 16・・・脚支持部材（支持部材）

15a, 16a・・・下腿配設溝（配置溝）

15a1, 15a2・・・側壁

16a1, 16a2・・・側壁

19～22・・・エアバッグ（施療子、脹ら脛用施療子）

2 7, 2 8 …エアバッグ (回動手段)

3 0 …台駆動手段

3 5 …エア給排気手段 (施療子作動手段)

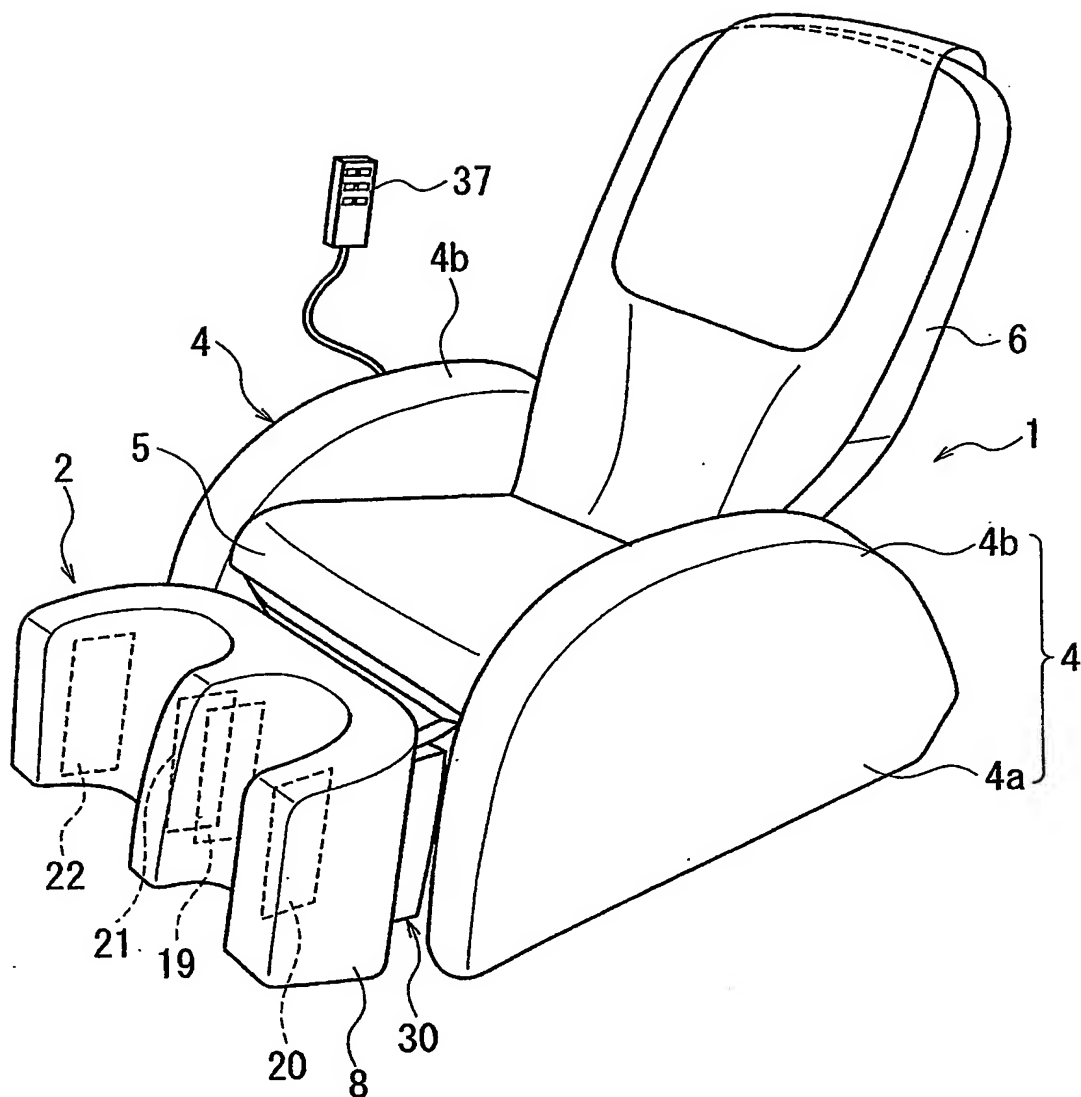
3 6 …演算制御回路 (制御手段)

1 0 0 ~ 1 0 6 エアバッグ (椅子用施療子)

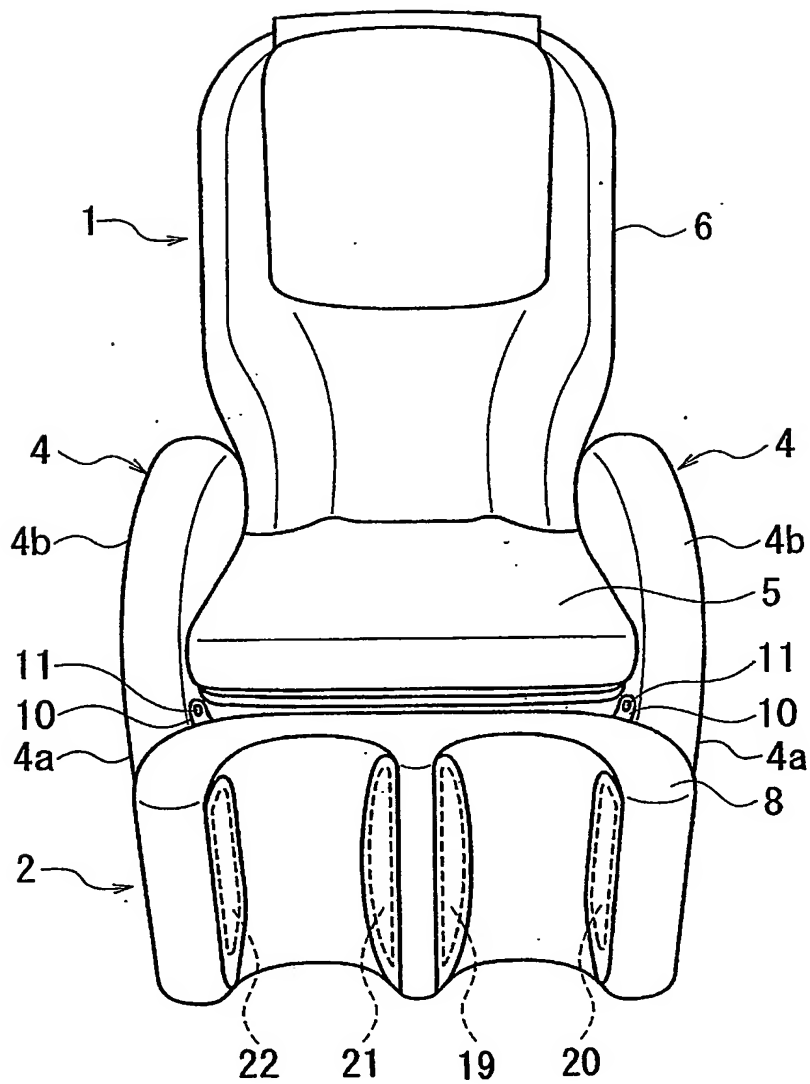
1 1 2 …スイッチ

【書類名】 図面

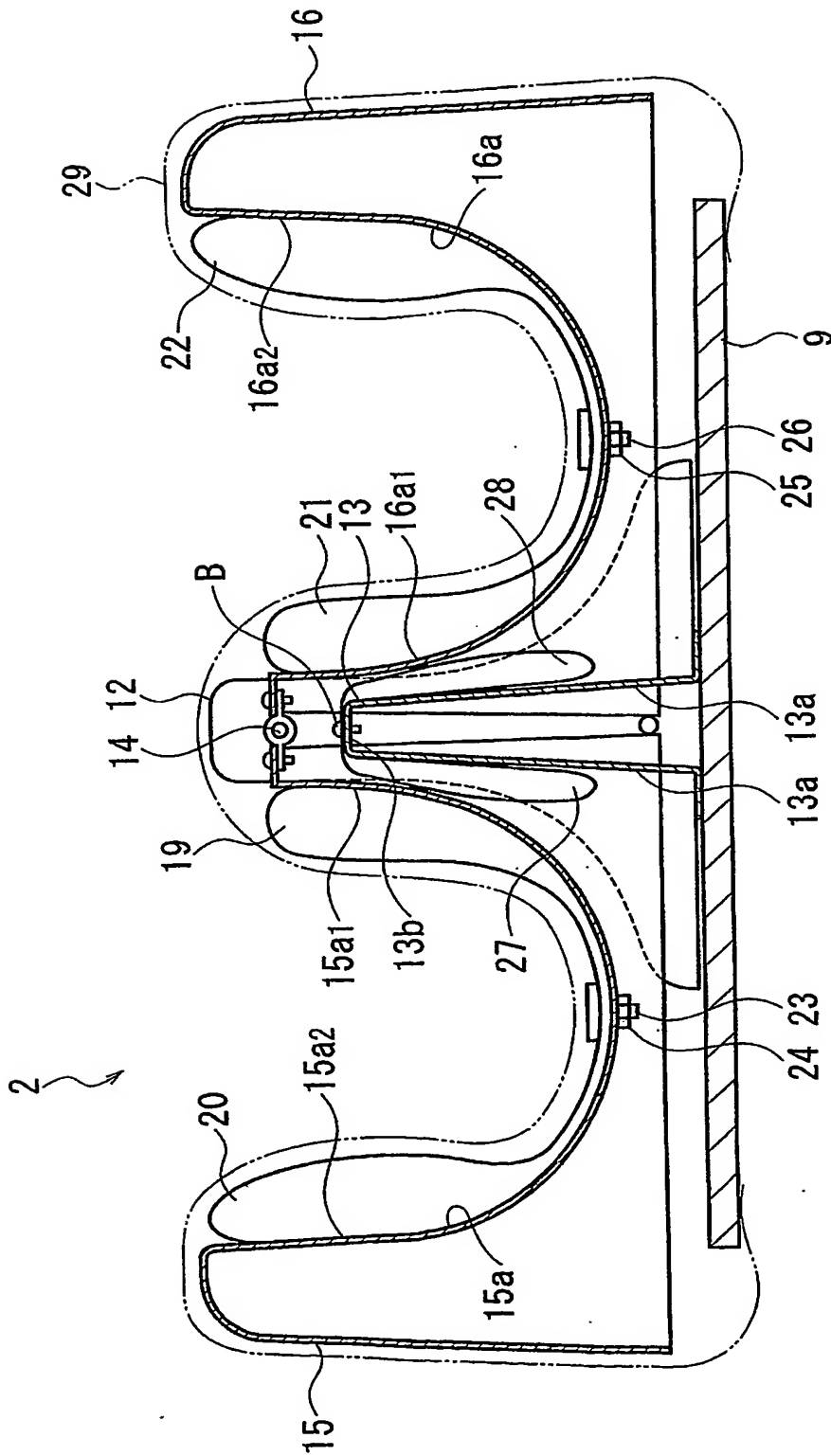
【図 1】



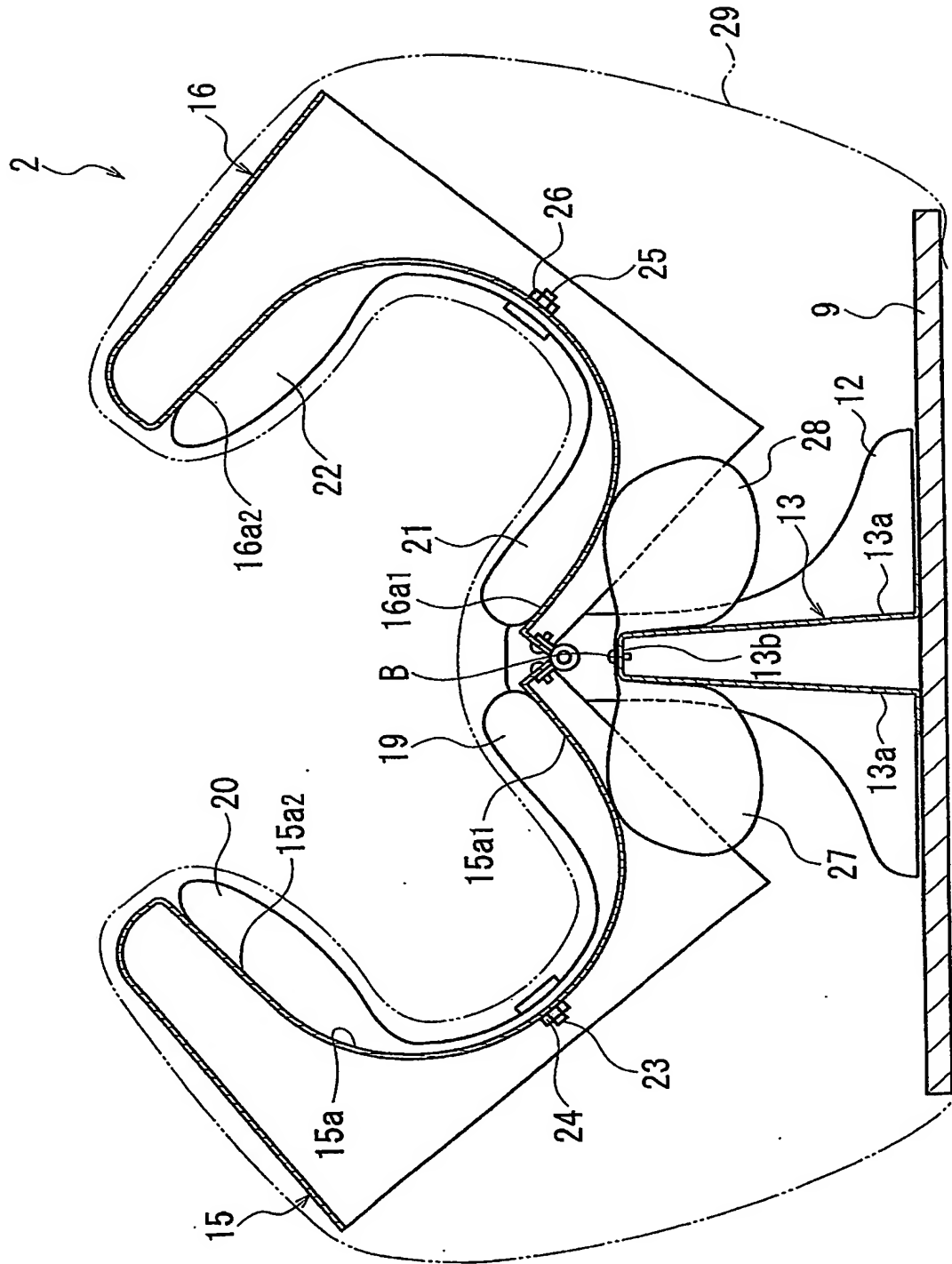
【図 2】



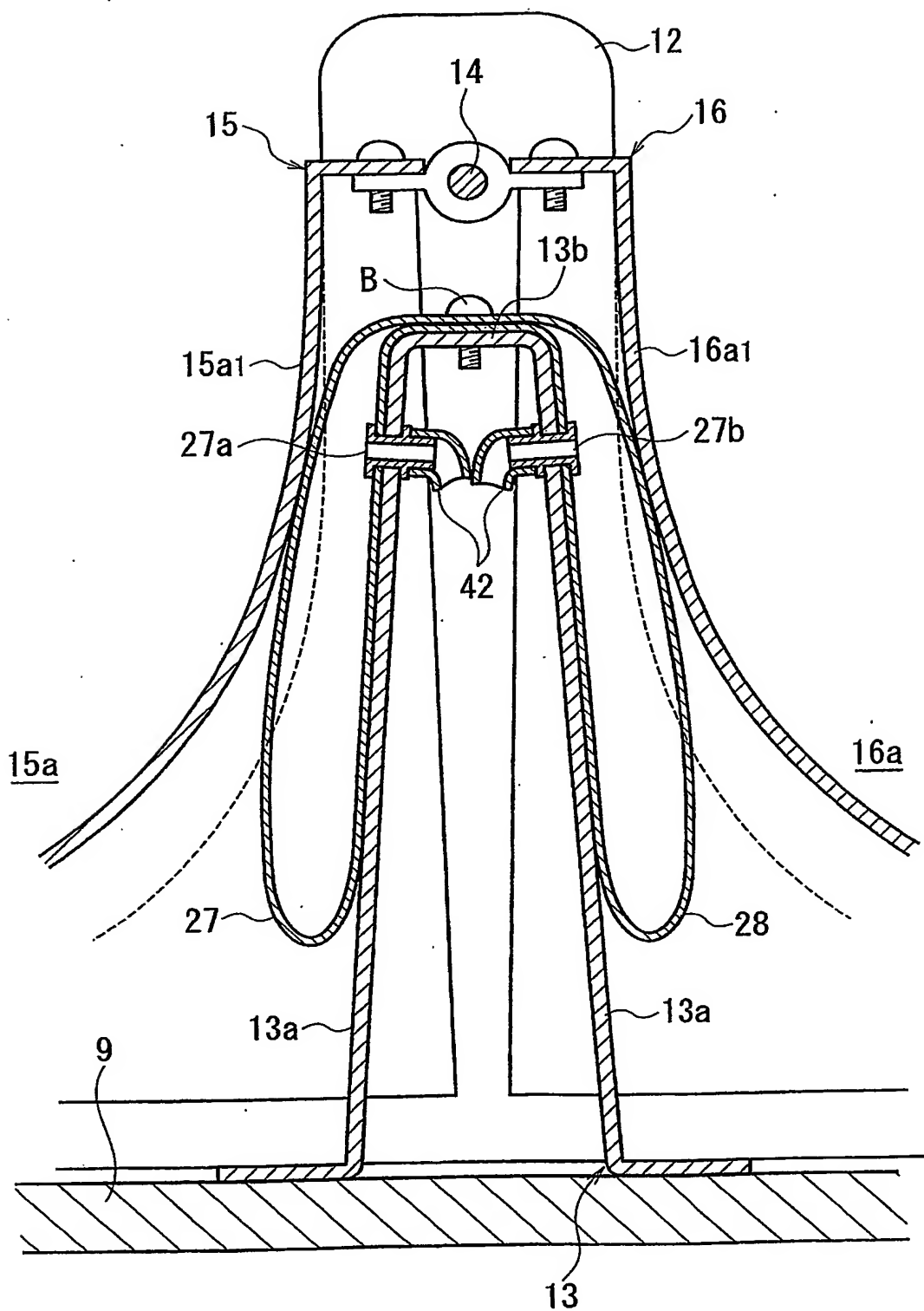
【図 3】



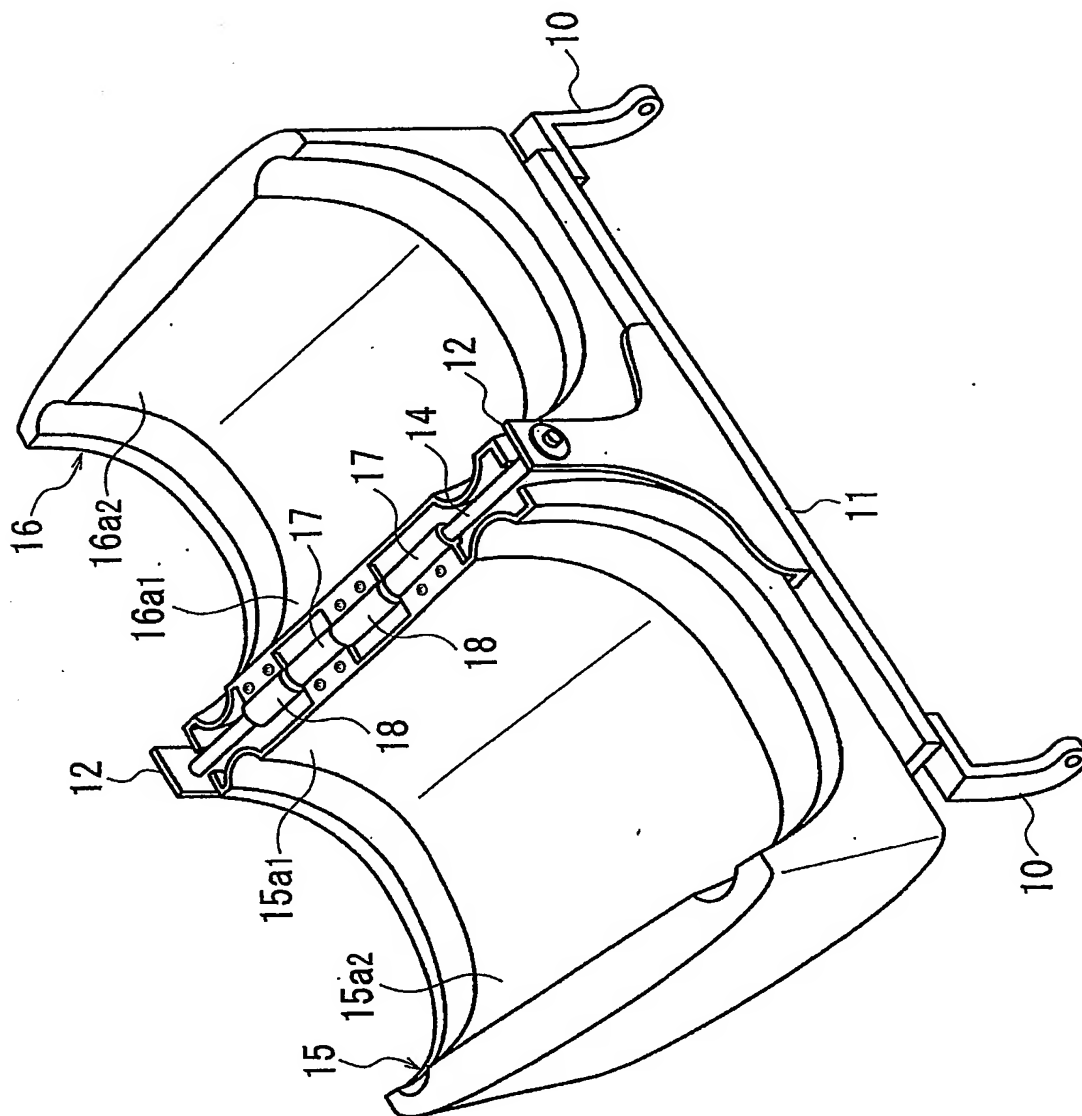
【図 4】



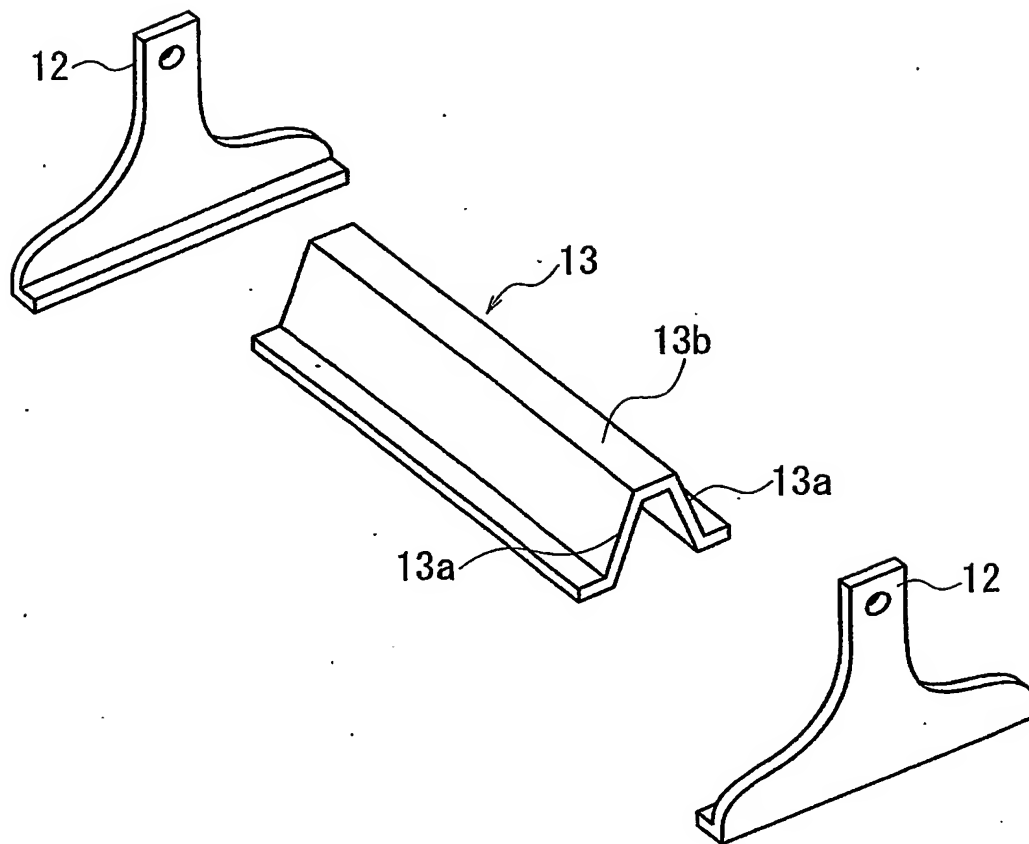
【図 5】



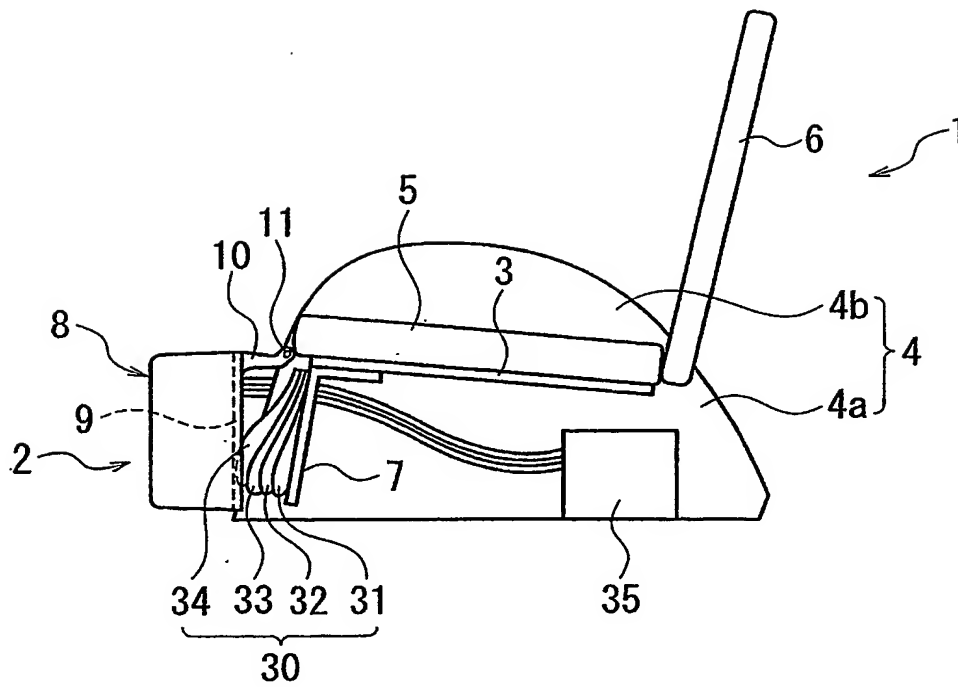
【図 6】



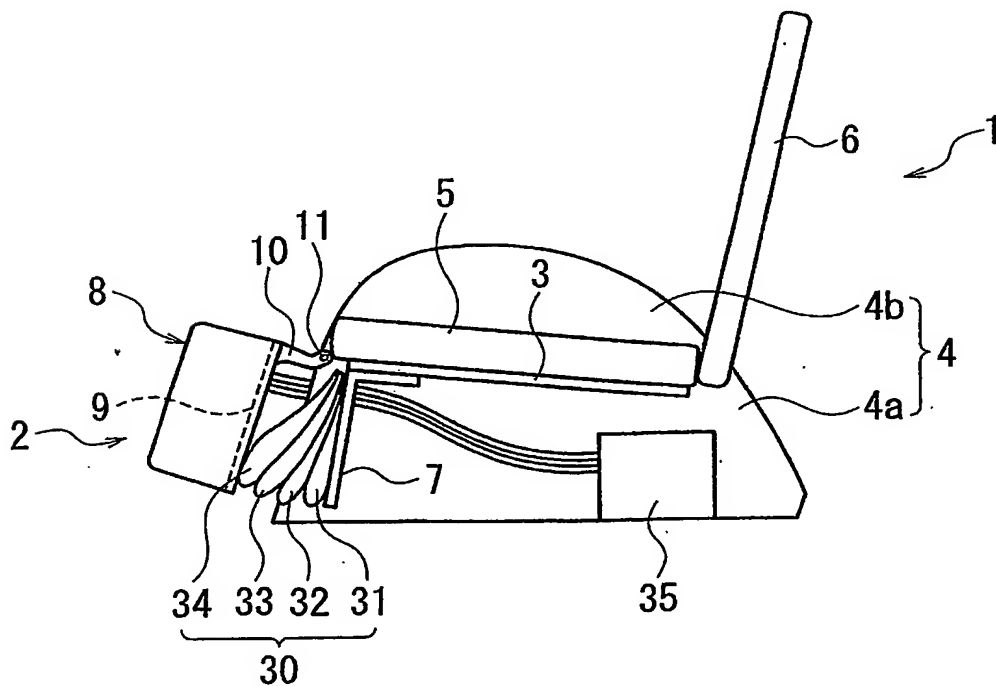
【図 7】



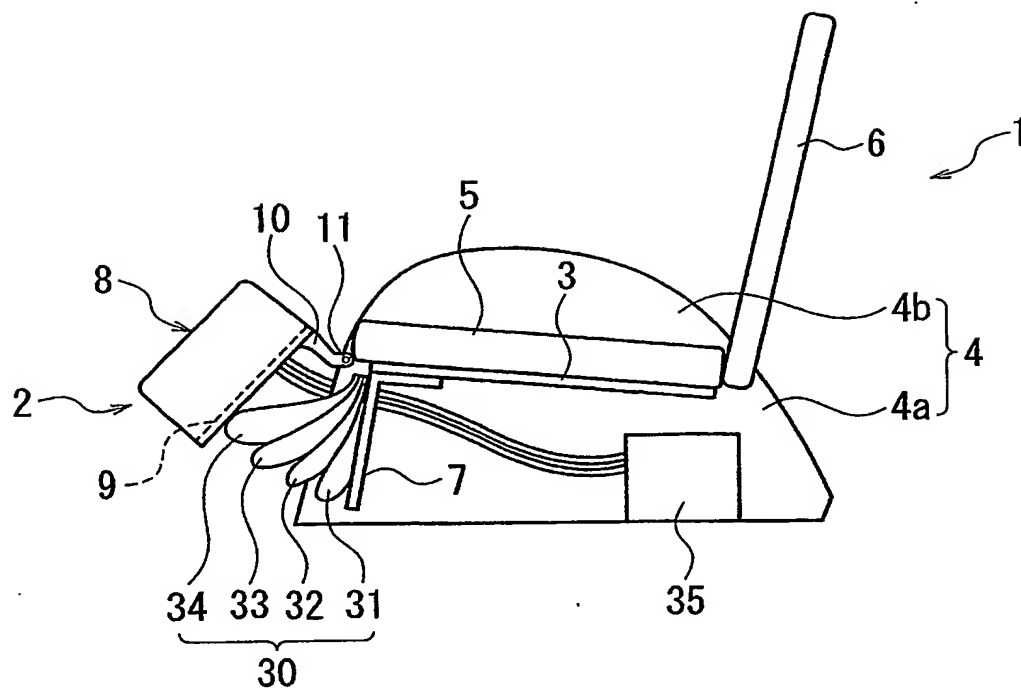
【図 8】



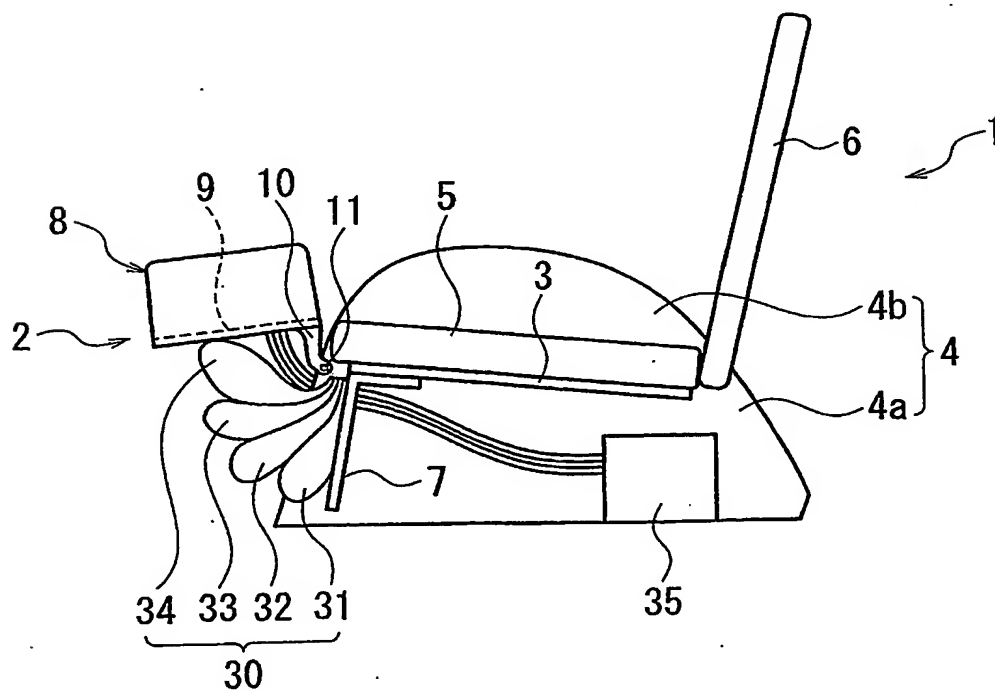
【図 9】



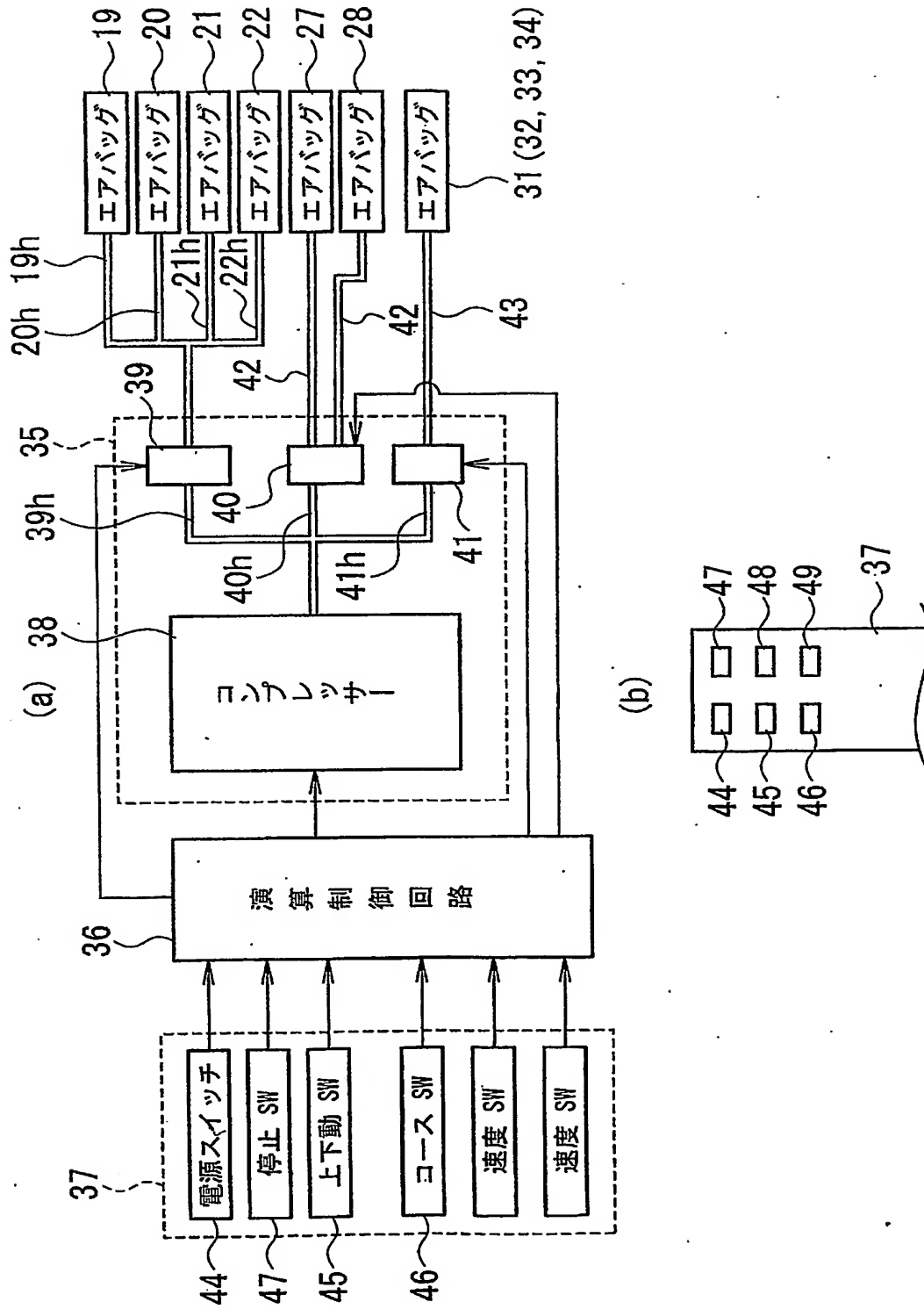
【図 10】



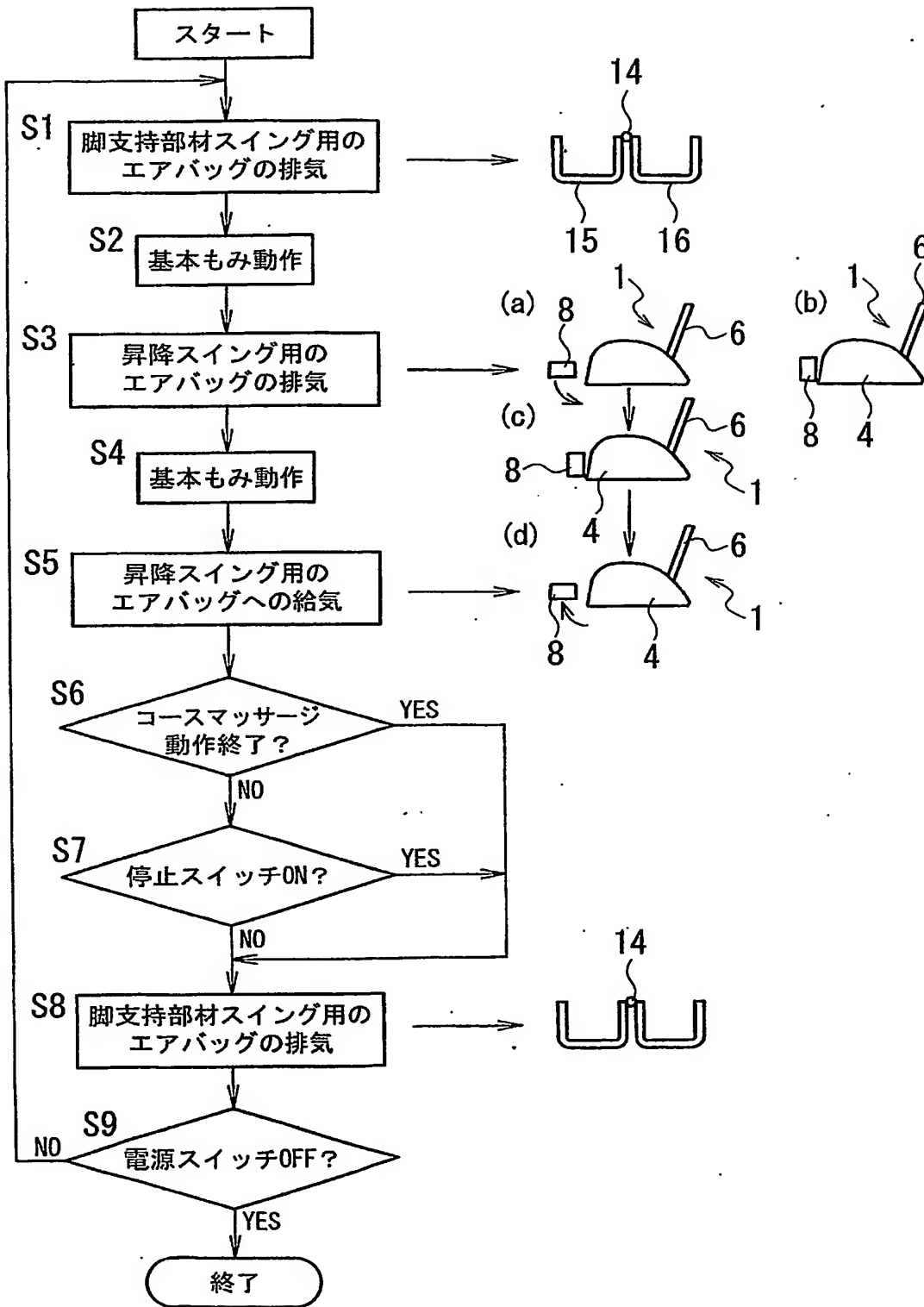
【図 11】



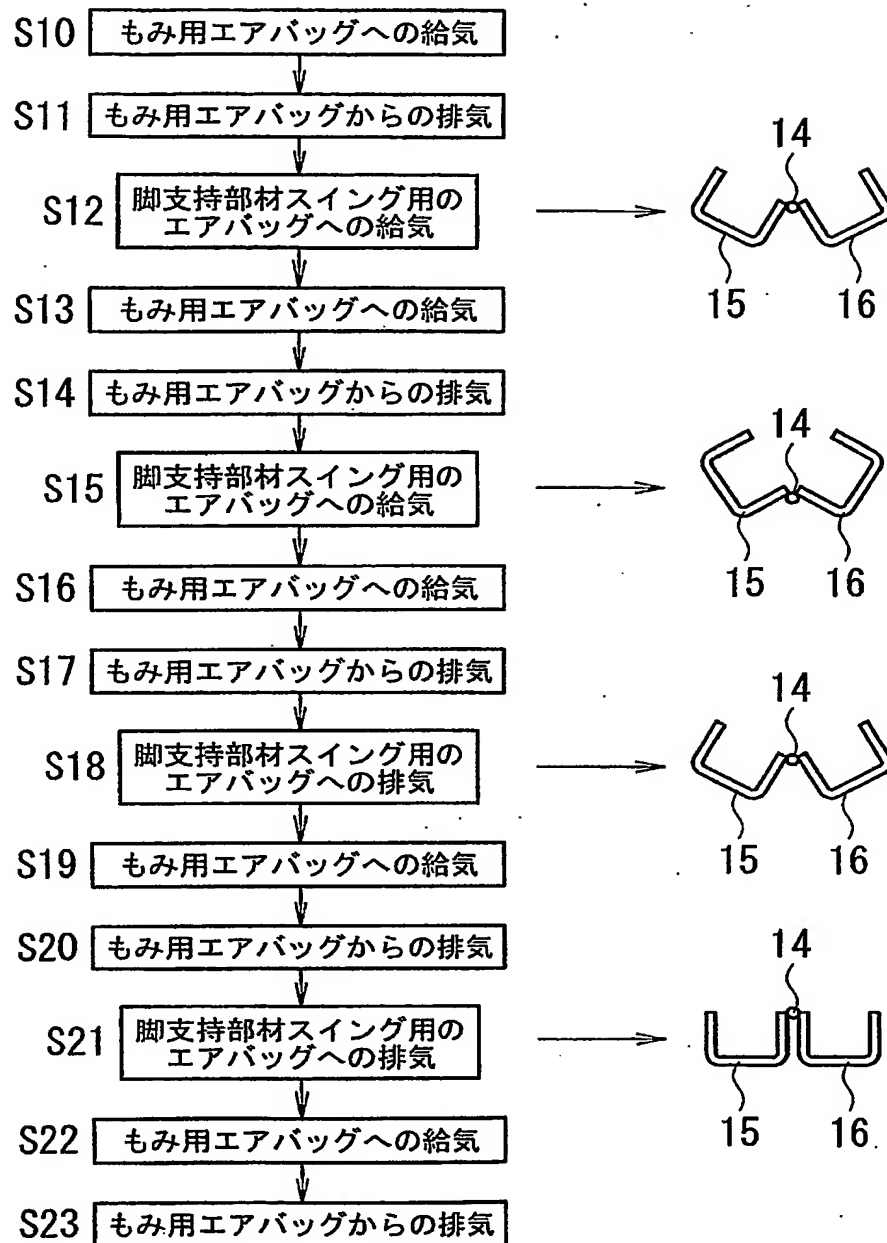
【図 12】



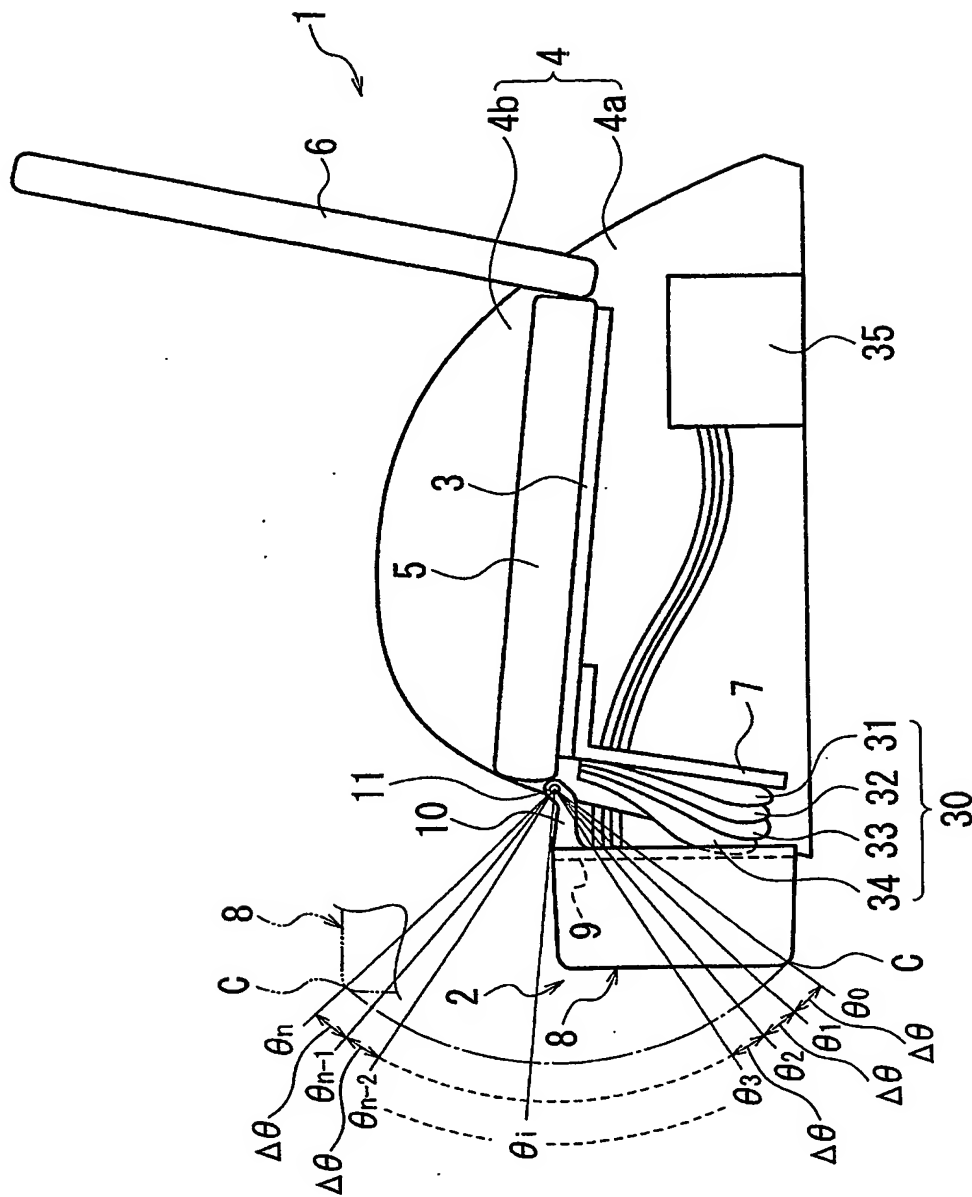
【図 13】



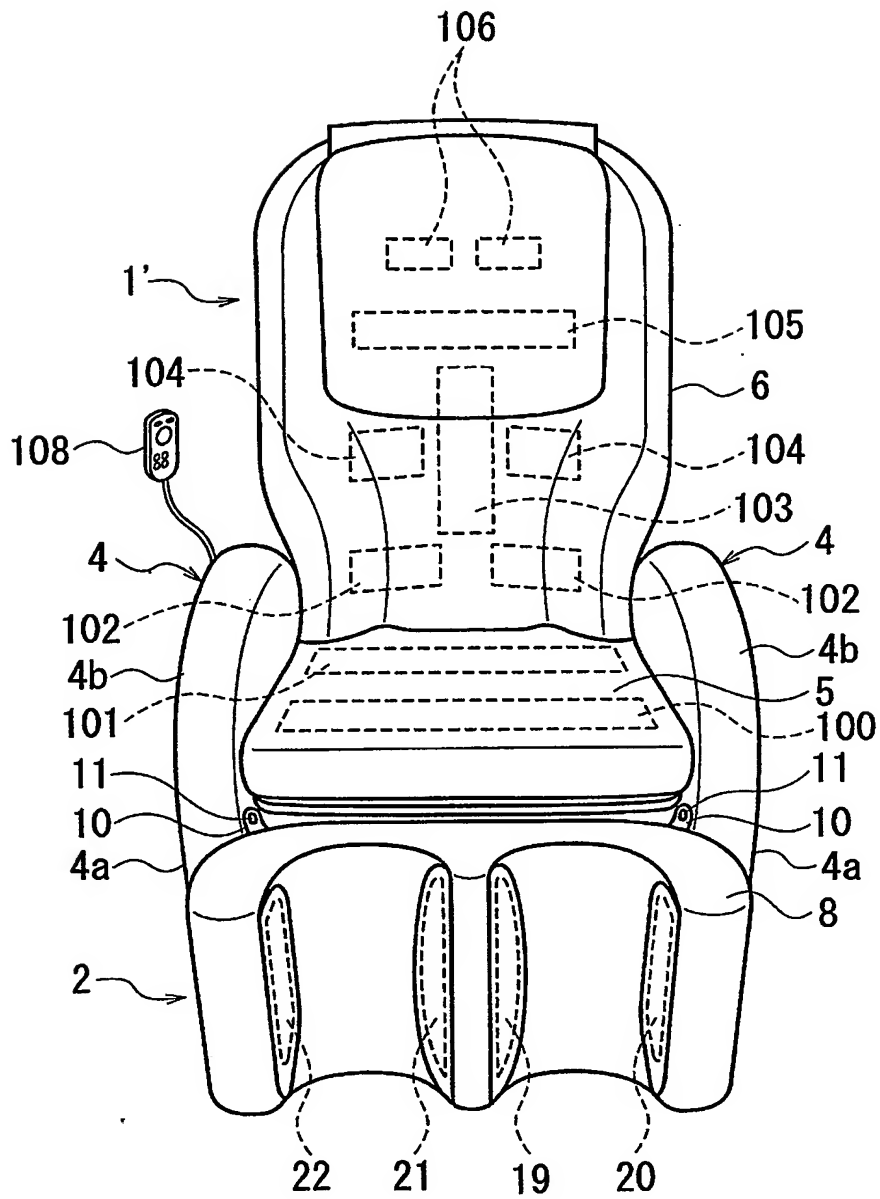
【図14】



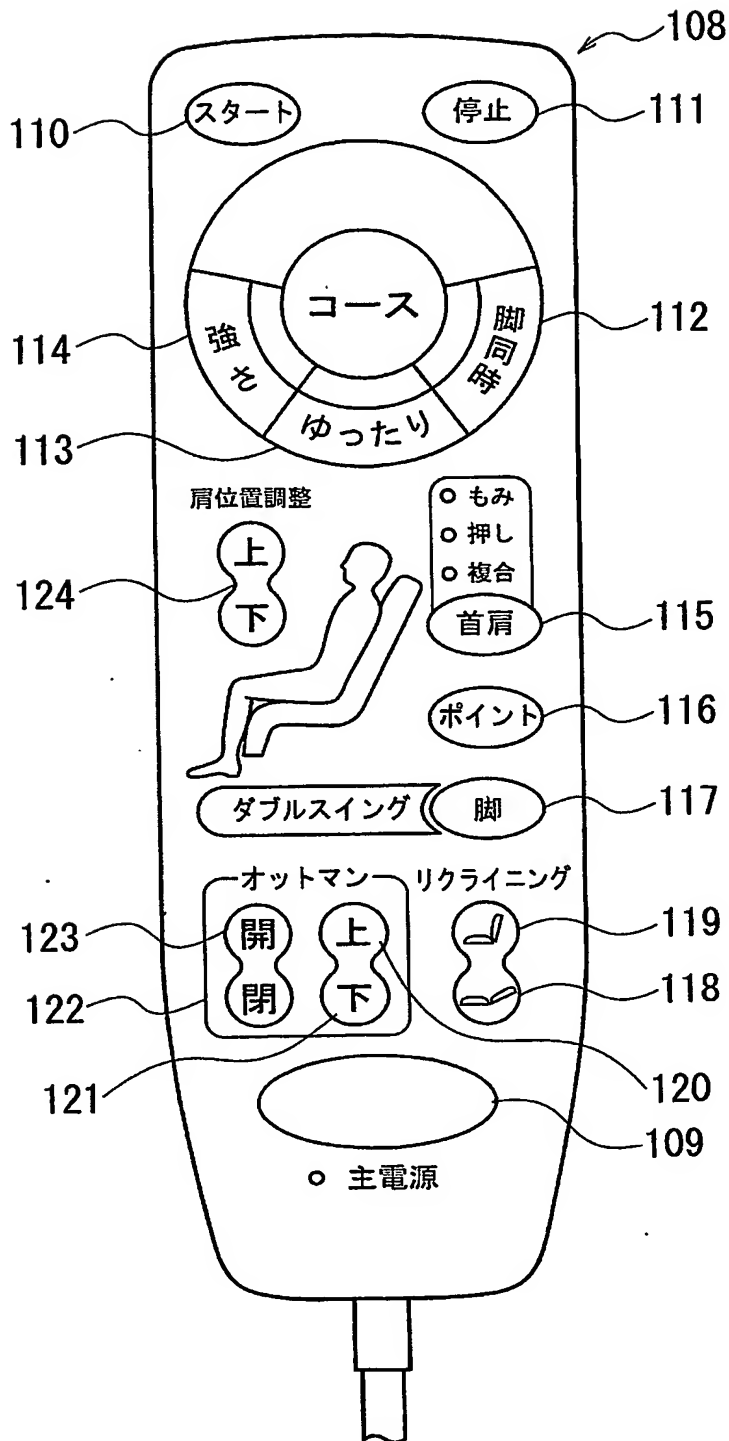
【図 15】



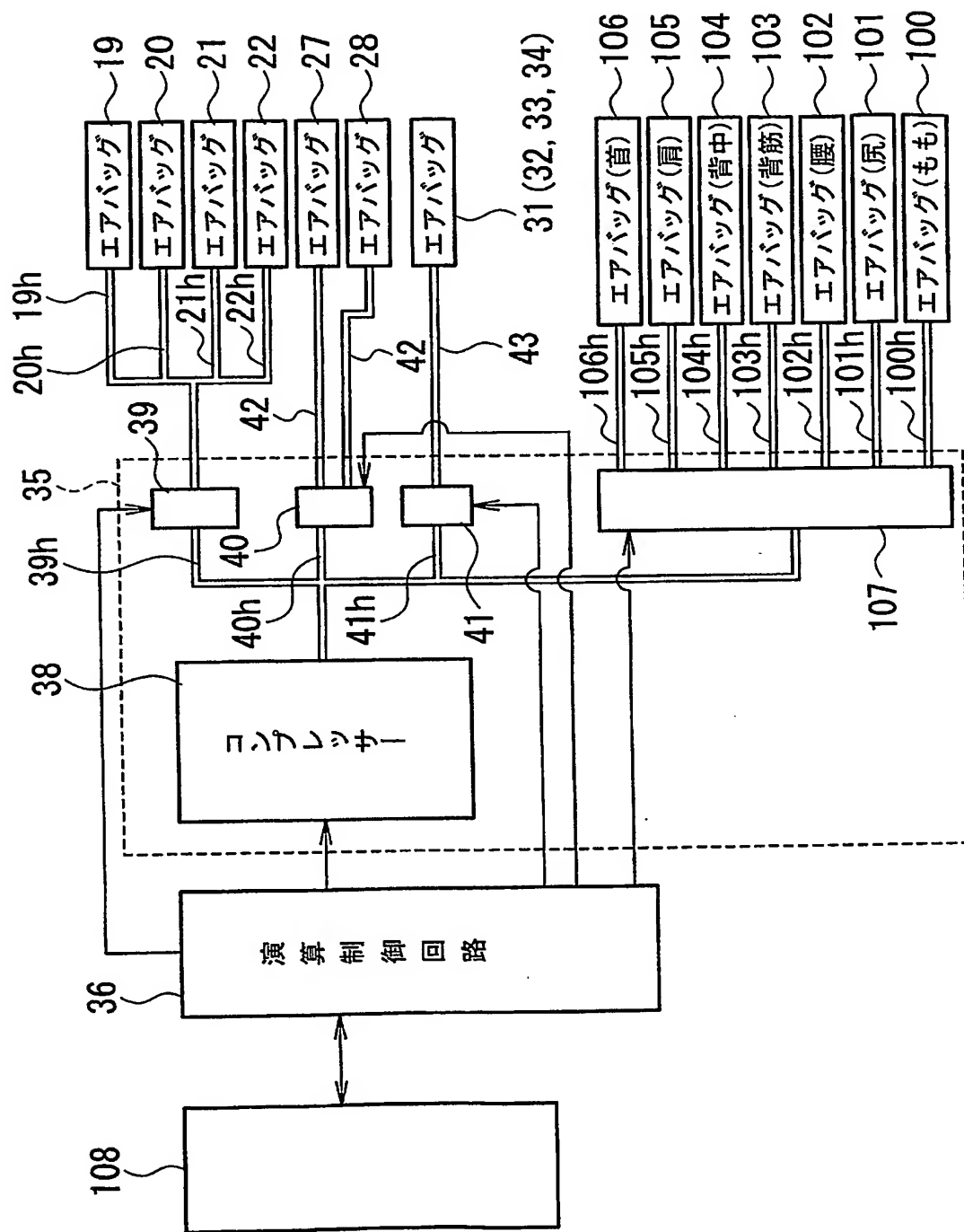
【図 16】



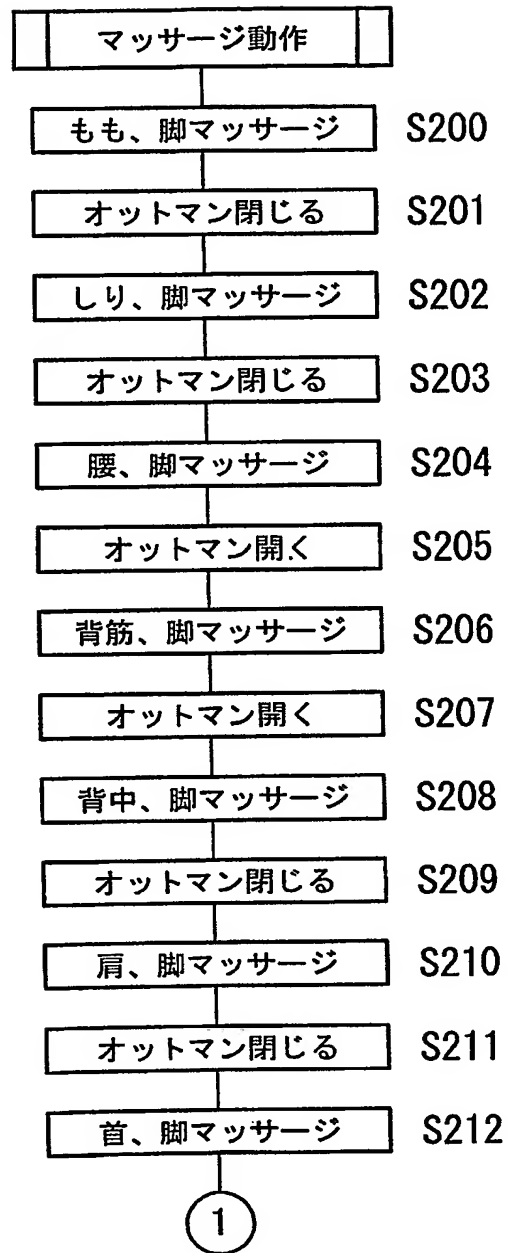
【図17】



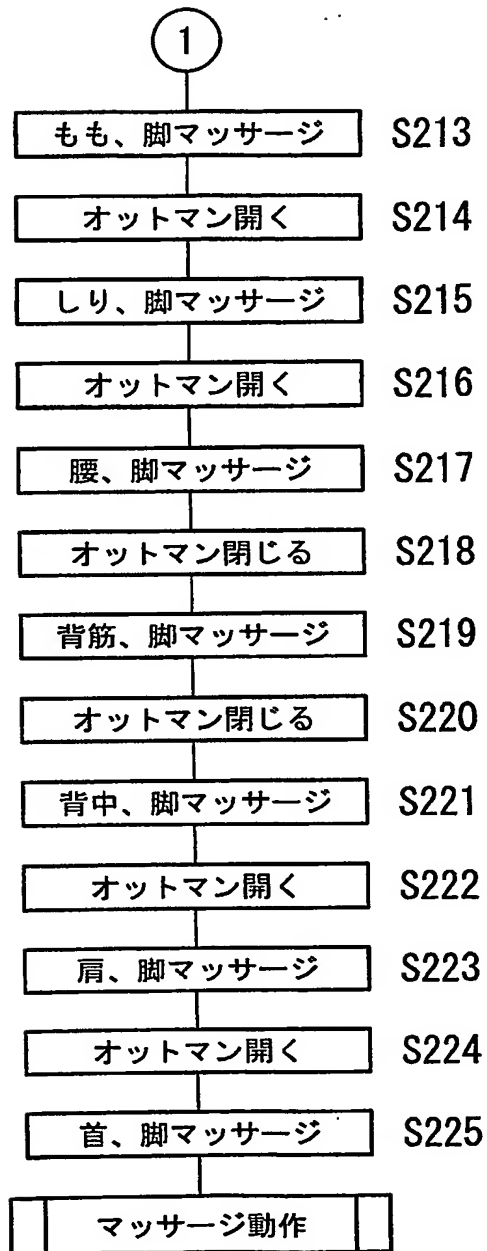
【図 18】



【図 19】



【図 20】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 下腿の周方向各部のマッサージを連続的に実行して、下腿のマッサージを効果的に行うことができるマッサージ装置を提供すること。

【解決手段】 マッサージ装置は、利用者の下腿を配設させる下腿配設溝 15 a, 16 a が設けられ且つ下腿配設溝 15 a, 16 a の周方向に回動可能に設けられた脚支持部材 15, 16 を有する足載せ台 8 と、脚支持部材 15, 16 を下腿配設溝 15 a, 16 a の周方向に回動させるエアバッグ 27, 28 を備えている。また、マッサージ装置は、下腿配設溝 15 a, 16 a に設けられたエアバッグ 19～22 と、エアバッグ 19～22 を作動させて下腿をエアバッグ 19～22 によりマッサージさせるエア給排気手段 35 と、エア給排気手段 35 を作動制御する演算制御回路 36 を有する。この演算制御回路 36 は、エアバッグ 27, 28 を作動させて脚支持部材 15, 16 を下腿配設溝 15 a, 16 a の周方向に回動させる回動動作をさせながら、エア給排気手段 35 を作動させて下腿をエアバッグ 19～22 によりマッサージさせる様になっている。

【選択図】 図 13

特願 2 0 0 3 - 1 0 8 2 1 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 3 5 6 2]

1. 変更年月日 1 9 9 9 年 1 月 1 4 日

[変更理由] 名称変更

住所変更

住 所 東京都千代田区神田錦町 1 丁目 1 番地
氏 名 東芝テック株式会社